

いわて 幸福白書 2025



第1部

令和7年の幸福トレンド

自分にとっての幸せを、
誰もが高められる社会へ

一般社団法人スマートシティ・インスティテュート 代表理事 南雲 岳彦 氏

多様な視点・意見を認め合い、
「個」の可能性を拓いていく

一般社団法人ダイアログ・ジャパン・ソサエティ 理事 及川 美紀 氏

幸福度を高める身近な取組

高校生ならではの行動力で、自分たちのまちを盛り上げる
高校生まちおこし団体 INSPIRE

ちょっと手を伸ばすだけで、岩手にはたくさんの幸せがある
ナカヤエンターテイメント 田仲 美季 氏

第2部 「希望郷いわて」の今

第3部 データ編

お互いに幸福を守り育てる 世界に開かれたいわてに

岩手県の総合計画「いわて県民計画(2019～2028)」は、広く意見をうかがいながら、「オール岩手」で策定した計画であり、行政だけではなく、関係団体や企業、NPOなど多様な主体が10年後の将来像を共有し、それぞれの主体が自ら取組を進めていくためのビジョンとなるものです。

岩手県では、広範な地域に甚大な被害をもたらした東日本大震災津波からの復興に当たり、「一人ひとりの幸福追求権の保障」を原則の一つに掲げ、県民一丸となって取組を進めてきました。

「いわて県民計画(2019～2028)」のもと、こうした復興の実践で学び、培ってきた「一人ひとりの幸福を守り育てる」姿勢を県政全般に広げるとともに、物質的・経済的な豊かさに加え、心の豊かさを大切に、一人ひとりの暮らしや仕事に着目した施策の推進と、東日本大震災津波からの復興に取り組みながら、お互いに幸福を守り育てることで、県民一人ひとりが希望を持つことのできる「希望郷いわて」を目指していくこととしています。

「いわて幸福白書」は、こうした考えのもと、幸福度の向上につながるトレンドや、国内外における「幸福」をめぐる動きを御紹介するとともに、県の施策や今後の方向について広くお伝えするものです。

今、日本へのインバウンド観光はコロナ禍前を上回り、世界中で食をはじめ日本の生活文化に関係する需要が高まっています。特に、日本の地方への関心が高まり、その中でも岩手県が目ざされ、盛岡などの街並みや日常風景、複数の海外メディアに取り上げられた「みちのく潮風トレイル」、世界遺産や伝統芸能、高品質の農林水産物や食文化、伝統工芸品などが、世界から高い評価を受けています。

これらの価値や魅力を発信し、人口減少対策に最優先に取り組む、世界に開かれた地方創生を進めていくことが、若者・女性に選ばれる岩手の実現や、県民の幸福・ウェルビーイングを高めることにつながります。

岩手の先人、宮沢賢治は「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」という言葉を残しています。

時代の潮流やチャンスをつかるとともに、「他人とのかかわり」や「つながり」を大切にする岩手県ならではの社会観を生かしながら、「お互いに幸福を守り育てる希望郷いわて」を目指し、みんなで行動していきましょう。



もくじ INDEX

P.2 はじめに

P.5 第1部 令和7年の幸福トレンド

有識者等から、幸福に関する国の動きや最新研究等も踏まえ、令和7年の幸福トレンドについて、論じていただきます。

INTERVIEW.1 「自分にとっての幸せを、誰もが高められる社会へ」
一般社団法人スマートシティ・インスティテュート 代表理事 南雲 岳彦 氏

INTERVIEW.2 「多様な視点・意見を認め合い、「個」の可能性を拓いていく」
一般社団法人ダイアログ・ジャパン・ソサエティ 理事 及川 美紀 氏

幸福度を高める身近な取組

県民総参加による幸福度の向上につながる取組の更なる推進に向けて、県内で幸福度を高める取組を行っている方々を御紹介します。

INTERVIEW.1 「高校生ならではの行動力で、自分たちのまちを盛り上げる」
高校生まちおこし団体 INSPIRE

INTERVIEW.2 「ちょっと手を伸ばすだけで、岩手にはたくさんの幸せがある」
ナカヤエンターテイメント 田仲 美季 氏

P.23 第2部 「希望郷いわて」の今

“県民の幸福感の現状”として、県民意識調査の調査結果を紹介します。また、“県民の幸福度の向上に向けた県の取組や成果”として、「いわて県民計画（2019～2028）」に掲げる10の政策分野の政策評価結果を紹介します。

P.55 第3部 データ編

第2部で使用したデータを一覧で紹介いたします。

第1部

令和7年の 幸福トレンド



INTERVIEW.1

自分にとっての幸せを、 誰もが高められる社会へ

一般社団法人スマートシティ・インスティテュート 代表理事

南雲 岳彦

なくも たけひこ

一般社団法人スマートシティ・インスティテュート代表理事。1990年慶応義塾大学法学部卒。三菱UFJ銀行(旧三菱銀行)入行。国の各種審議会の委員・有識者会議構成員等を歴任。「デジタル田園都市国家構想」に向けた地域幸福度(Well-Being)指標の活用促進に関する検討会の委員としても参画。全国様々な自治体の政策関連アドバイザーも務めている。



住民の「暮らしやすさ」と「幸福感(ウェルビーイング)」を可視化する「地域幸福度(Well-Being)指標」を生み出した、一般社団法人スマートシティ・インスティテュートの南雲代表理事。産官学民と協働し、各地でウェルビーイングなまちづくりを牽引していますが、指標データを活用した政策・事業展開や裾野を広げる取組の重要性などをお話いただきました。



—— 最初に、南雲代表理事がスマートシティ^{※1}を推進していく中で、なぜウェルビーイングに着目したのか、デジタル庁と連携し、地域幸福度(Well-Being)指標を手がけようと考えた経緯について、お聞かせください。

南雲 2019年にスマートシティ・インスティテュートを立ち上げました。当時「日本はデジタル化が遅れている」、「生産性が低い」、ということを言われていた時代で、社会課題をテクノロジーで解決するデジタル化した社会を目指すという入口から、スマートシティの拡大と高度化を推進するためのナレッジ&産官学民連携プラットフォームとしたものです。毎年、スマートシティについて、会員の自治体向けにアンケートを取っていますが、一番基本的なところで、住民の関心がないということが、大きな課題だという認識をまず持ちました。そのような中、妻にスマートシティの話をしたときに、「スマートシティでどうやって私を幸せにするのか」と聞かれ、テクノロジードリムみたいなものに乗っ取られそうになっている頭が元に戻った気がしました。ちょうどその頃、オーストラリアのロイヤルメルボルン工科大学と

の付き合いが始まって、意見交換をしている中で、彼らがリバビリティ・インディケータという暮らしやすさの指標を持っていることを知りました。彼らの視線がデジタル化よりもさらに先の人間中心主義のところにあるということを目の当たりにしたことで、リバビリティ・インディケータの日本バージョンを作るところから着手しました。また、その頃、デジタル化の関係でヨーロッパにも行っていたのですが、「ウェルビーイング」という言葉がそこら中で使われていました。これからの社会というのはデジタル化ではなくて、人間中心主義で、人間が暮らしやすく幸せになれるということを目指さなければいけないのではないかと考えました。つまり、デジタル化、DX(デジタルトランスフォーメーション)は目的ではなくて、人間が幸せになるためのツールであるということで、かつてのスマートシティでは、目的と手段が逆の議論が横行していたということですね。いち早くデジタル化することが是であるという気持ちで臨むのですが、住民は誰も関心を持っていない。このツールを使うことで、どう幸せになるのかということを目に見えるような形にして住民につなげ

なければ、多分日本は立ち行かないだろうなと思いました。

—— 南雲代表理事が手がけられた、地域幸福度(Well-Being)指標についてお聞きします。全国の様々な自治体で、指標の意義や活用について研修や講演をされている南雲代表理事から見て、指標を導入する自治体の特徴や、注目している自治体はありますか。

南雲 地域幸福度(Well-Being)指標を導入している自治体は全国で120ほどあり、だんだんと広がっているところですね。肌感覚ですが、関東から沖縄まで西側の自治体は取り入れるのが早い気がします。東北は馴染みが薄く、少しゆっくりな印象ですね。あとは、首長さんが先頭に立ってウェルビーイングに取り組んでいるところは早いです。こういったウェルビーイングを軸にした施策の導入について、岩手県は本当に先行事例ですが、東北の事例として会津若松市では、まち・ひと・しごと創生総合戦略の中に「地域幸福度(Well-Being)指標の活用」が位置付けられています。同市は、スマートシティとして日本最先端のパイロットシティであり、デジタル化がもの

ウェルビーイングが暮らし・学びの根付く環境づくりが大事。



すごく進んでいて、住民がデジタル実感を持てるように指標を活用しています。デジタルというツールが普及している中、指標を導入して市民のウェルビーイングを測り、その結果を政策に反映していくという政策デザイン能力の向上につながっています。

—— ウェルビーイングを巡る今後の展開ですが、ウェルビーイングは一部の自治体だけが取り組む一過性のブームとしてではなく、将来的にSDGsのようにあらゆる主体が達成を目指す普遍的な目標となることも期待する声もありますが、いかがでしょうか。

南雲 国内総生産(GDP)だけでは測れない、「国民が実感する豊かさや幸せを評価するための新しい指標」を検討する国連の枠組みである「Beyond GDP」の話でいくと、今後はGDPと並ぶ重要指標としてウェルビーイング指標が確立する方向に向かっていくと思います。そうなる

と、それを実現するための手段として何が重要かという点、それがSDGsだと思うのです。ただ、自動的にそうなるかという点でもなく、やはりそれを理解できる人材を増やしていくとか、子どもの頃から、ウェルビーイングという言葉が普通に会話の中に入ってくるような土壌や、小学校から大学の学びの中で、ウェルビーイングという言葉が教科書に普通に出てくるような環境も必要だと思いますし、社会規範としても家庭の会話の中で「私たちは幸せなのか」という問いが自然に出てくるような環境が必要になってくると思います。そういう環境を作って残していく、伝えていくということが我々世代の責任ではないかと僕は思っています。

—— 地域のウェルビーイングを高めるためには、行政の政策だけでなく企業や住民との連携、協力が重要と言われています。企業として、そして住民ができることは何か、南雲代表理事が全国各地を見

てきた御経験から、企業や住民が協力している良い事例や、成功のためのアイデアがあれば是非教えてください。

南雲 まず、企業に関して言うと、僕がいくつかの企業と関わる中で、ウェルビーイングのデータを使って新規事業を立ち上げるというモデルに注目しています。今までは、住民の幸福度を高める公共寄りの企画が中心でしたが、ウェルビーイングのデータを使って商売を行うことができれば、ビジネスモデルとして企業の関心が高まります。企業は市場が相手になり、複数の自治体にまたがる形になりますが、顧客となる住民がどういったウェルビーイングの満たされ方をしているのか、満たされていないところに企業としてできる商売はないのかと考えると、頭が回転し始めます。自治体の場合は、その行政単位の境界を意識しながら、企業のビジネスモデルにもつながるようなウェルビーイングのデータの整理ができれば、企業との連携が見

加速するのではないかと思います。住民との連携で言うと、まずウェルビーイングという言葉があって、住民の方が「地域や自分にとってウェルビーイングとはどういう状態なのか」ということを認識できないと、どのような政策を進めていくべきなのかという意見が持てないと思います。そのために住民の方に、まずは自身のウェルビーイングについて理解を深めるためのワークショップなどに1度参加する機会を持っていただくことが大事です。あとは、やはり学校教育が重要だと思います。別府市での取組の事例ですが、市の総合計画を作るプロセスとして、市の職員と大学生で6ヶ月間の研修を開催しました。外国人留学生の方もたくさんいて、大学生と市の職員の初のコラボの試みで試みて、僕も関わり、それなりに大変でしたが、ウェルビーイングを考える貴重な場になりました。また、山口大学では、4月から基礎科目としてウェルビーイングを学べる「ひと・まち未来共創学環」が開設されます。そういう裾野を広げていく努力をしていかなければならないと思いました。

—— ウェルビーイングの考え方が普及してきたことによる成果がある一方で、見えてきた課題について、

南雲代表理事のお考えをお聞かせください。

南雲 比較的大きい視点で言うと、個人や社会のウェルビーイングと、人間以外の生命全てを含む地球全体のウェルビーイングをどのように両立していくか、ということでしょうか。今の時代の流れでいくと、地球の自然環境との共存は、待ったなしの状況になっているという理解をしています。このような中、自然環境において、後戻りできないような数値が一つひとつ増えていくと、もう本当に戻らないので、GX(グリーン・トランスフォーメーション)などいろいろな対応がありますが、自然環境のウェルビーイングと人間のウェルビーイングを両立させる明確な手法ができあがっていないという認識を持っています。皆さんも、自然環境を良くしようと思ったらマイカーには乗らない方が良くと言いながら、乗りますよね。自然環境に良いものは少し値段が高いから、場合によっては買わない、ということはあるよね。水や食料など、地球という物理的なものから切り離すと生物は生きていけないので、地球を保全することは、巡り巡って自分を保全することにもつながっている。それは循環しているところもありますし、個

人個人が、まず生物として、個体として生きていかなければならないし、社会の中で生きていかなければならない。でも、その結果、自分の夢、個人のウェルビーイングは叶っているのか。自然環境の方を優先しなければならない割合が増えていくときに、人間のウェルビーイングと自然環境のウェルビーイングを両立する方法がまだ言語化されてないです。今、僕が重要視して、解決するために取り組んでいるのはまさにこれです。

—— 各地で御活躍している南雲代表理事から、ウェルビーイングを巡る貴重なお話を頂きました。最後に、今後の岩手県の取組に対して期待することやメッセージをお願いします。

南雲 地域幸福度(Well-Being)指標を作るときも、岩手県の幸福政策について勉強させていただきまして、「岩手の幸福に関する指標」研究会の会議結果や議事録も全て拝見しました。僕たちの知的基盤のところをつくるときの大きな励みになりました。県レベルで素晴らしいことをやっているのだから、これからも先頭を走り抜けていって欲しいと思っています。非常にグローバルな時代になってきたので、ぜひ共に刺激し合うような場を増やして、一緒に進んでいければと思います。

※1 スマートシティ
グローバルな諸課題や都市や地域の抱えるローカルな諸課題の解決、また新たな価値の創出を目指して、ICT等の新技術や官民各種のデータを有効に活用し社会、経済、環境の側面から、現在および将来にわたって、住民、企業、訪問者に、より良いサービスや生活の質を提供する都市または地域。



インタビュアー

わがわ ひろし
和川 央

岩手県立大学宮古短期大学部准教授。博士(学術)、専門社会調査士。専門は公共政策、社会学で、自治体政策や幸福度指標に詳しい。元岩手県庁職員で、2023年から現職。岩手県立大学地域政策研究センターWell-being研究部門長、県政策分析アドバイザーなどを務める。



INTERVIEW.2

多様な視点・意見を認め合い、「個」の可能性を拓いていく

一般社団法人ダイアローグ・ジャパン・ソサエティ 理事

及川 美紀

おいかわ みき

宮城県石巻市出身。1991年、東京女子大学卒業後、ポーラ化粧品本舗(現株式会社ポーラ)入社。子育てをしながら30代で埼玉エリアマネージャーに。2009年より商品企画部長を経て 2012年執行役員、2014年取締役役に就任。教育、マーケティング、商品企画、営業など化粧品事業のバリューチェーンをすべて経験し、2020年1月より2024年12月に退任するまで同社初の女性の代表取締役社長として会社を牽引。



カウンセリングを通じた化粧品販売やエステサービスを提供する株式会社ポーラの前社長として、ダイバーシティを前提とした企業改革を進めてきた及川美紀さん。多様な人材の個々の可能性に目を向け、主体的にチャレンジできる組織風土をつくってきた経験を伺いながら、これからの地域や中小企業、行政のあるべき姿についてアドバイスをいただきました。

—— 及川さんがウェルビーイングについて意識し、取り組み始めた経緯についてお聞かせください。

及川 2020年の社長就任直後にコロナ禍となり、社員たちがとても不安になってしまいました。でもその中で、現状を嘆いて右往左往している人たちと、現状を受け止めながらも、次に進むためにはどうしたらいいのかと、自分で思考を巡らす人たちがいて、後者の人たちがの方がエネルギーで、楽しそうだったので。このマインドの違いはなんだろうと考えた時に、慶応義塾大学大学院の前野隆司先生が提唱する「幸せの4つの因子」に出会いました。「やってみよう」「ありがとう」「なんとかなる」「ありのままに」の4つがあって、これを経営の中や社員のウェルビーイング、あるいは主体的なキャリアプランの中に入れていくため「共同で研究させてください」と依頼したのが最初のきっかけです。所属する組織から必要とされていると感じることで、社員から「チームに貢献したい、関わりたい」という主体的なアクションが出るようになり、働く意味がさらに出てくるのでは、と思ったのです。幸福に働くという意味で、やりたいと思ってやるのが大事なのではないかと。取組としては、私が2024年まで勤めていたポーラという化粧品

会社の企業理念が「美と健康を願う人々、社会の永続的幸福を実現する」で、永続的幸福とはまさにウェルビーイングですから、それを実現するのに、「化粧品の提供だけでいいのか」という話が出てきますよね。「働き方とか、人々との関係とか、地域社会との関係とか、そういうもの全てが永続的幸福につながるよね」ならば、「地域社会のウェルビーイングに貢献することも、会社のビジョンを実現することにつながるよね」、というように、会社のビジョン、パーパスのような大きいところを社員に浸透させながら、行動に落とし込んでいきました。そうしたつながりを社員一人ひとりが意識し、自分の得意分野を生かして行動することで、「私らしい」つながりができ、「やってみよう」という意識が生まれたのです。

—— 及川さんが前社長のときに、「女性のエンパワーメント原則」^{※1}に署名されています。それは会社として、「私らしさ」を受け入れることで女性活躍につなげる取組の一環でしょうか。

及川 おっしゃる通りです。まず「私らしさ」が認められないと、何かをやるという意識すら出てこないですね。残念ながら、組織の中では「自分らしさ」を出す

己中心的に思われるのではないかと遠慮で自分を抑えてしまう人がいます。そのせいで成長やチャレンジの機会を与えられない場合も多く、特にビジネスでは機会を与えられない人に女性が多いのも事実です。「こうあるべき」「女性の役割」のような規範にがんじがらめになっていることも。例えば地域社会においても「性別役割分業」の中で「こうあるべき」とらわれている場合があるのではないのでしょうか。これは男性にも同じことが言えます。「男性だからこのぐらいして当たり前」など規定されるとつらくなる。「こうあるべき」を超えて「あなたは思う？」という問いかけを発信していくためには、ダイバーシティが大原則でした。だから、ウェルビーイングのベースになるダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン(DE&I)^{※2}を浸透させていかないと、私が進めようとしている女性活躍の取組が表面的になってしまうと思いました。

—— 具体的には、どのような取組をされていましたか。

及川 一番先にやったことは、経営陣の意識改革です。制度・政策を作っても、それを使いやすい組織風土になるかどうかは、経営者や部門長がどういう思いでいる

変化への対応にこそ
多様な視点が
必要になります。



か、社員たちとともに制度をどう活用するかを考えることが重要になります。それと同時に、見える化が大事で、例えば今、当社で誰がどう頑張っているか、どんな思いを持っているかというような、定性のものはもちろん、管理職の男女比率がどのぐらい、というような定量的ものを全て見える化する。東京の本社に勤めている人と地方の事業所に勤めている人のマインドの違いみたいなものも、全て見える化しました。すると、「この人たちがこのぐらいの立場まで上がってくると、チャレンジのレベルはこのくらい上がるよね」ということがわかってきます。DE&Iやウェルビーイングに取り組み、最終的に、企業としてやりたいのは、主体的にチャレンジする人を増やすこと、「やってみよう率」を上げることで、伸びしろが見えてくる形になります。そうするとDE&Iは「やらねばならないこと」ではなく、「やりたいこと」に変わっていきます。DE&Iは女性だけでなく、男性、シニア、若

者の可能性探しです。また、DE&Iの取組には様々な問題も想定されますが、組織の持続可能性にもつながり、「10年後の人材をどう作り出すか」という射程の長い話にしていくと、「未来をこうしたいから、今の課題をこうしていこうね」という道すじが見えてきます。

—— 環境変化に企業はどう対応していけばよいとお考えですか。

及川 環境が変わるからこそ、多様な視点が必要になります。例えばこの5年だけでもコロナ禍があり、海外との関係性が変わり、これまでとは違う社会現象が起こり、自分の経験則が全く活きてなくなっています。混沌とした世の中だからこそ、バックグラウンドの違う人たちの視点が必要だということです。例えば、右下の絵を見て、「下駄を履いている」と思うのか「可能性を増やしている」と思うのか。いろいろな視点で新しい機会や課題解決の方法を発見できるの

はどちらなのか。変化の激しい世の中だからこそ、過去の経験で見ること大事だし、新しい視点で見ることのも大事。共に未来を作っていく人たちと議論するベースとして真の平等、公平性は大事だと思います。

—— そのようなお考えに至ったきっかけは何だったのでしょうか。

及川 経験で言うと、私は東北出身で、東京の大学への進学や、就職の際など、ある意味限定され、こうでなければならないという世界に生きてきて、その息苦しさみたいなものを少し感じていたのだろうと思います。自分が女性ということで、いろいろな壁を自分自身も経験してきたので、みんなに平等に機会があって、やる気になっていくというのはどういうことなのだろうと、ずっと考えていました。ダイバーシティは、次世代に何を残すかがとても重要であり、進めていくことが、次世代への約束になる

と思います。

—— 地方の中小企業がダイバーシティを推進するにはどうすればよいのでしょうか。

及川 ジェンダー問題という点で、大企業の一部では取組が進んできていますが、ダイバーシティについては、推進する余力がないと言っている企業は多いです。しかし、これは次世代に関わる話で、ダイバーシティを受け入れず、女性が活躍できない企業はこれからの人材に選ばれなくなり、人口もどんどん減っていく中で、ますます人材獲得が難しくなってきます。今、人を採用し、育て残すためには、給与面もさることながら、組織風土や人材の成長性を重視することが重要です。特に中小企業は、人という資源にどれだけアクセスできるかが、重要なテーマだと思っています。だから、人に選ばれる企業になるためには、男性も女性も、資格やスキルを持った人もいろいろな背景を抱える人もいる前提で、そうした人たちが活躍し、成長できる場を作ることが大切です。経営者が柔軟な視点で物を見られるかどうかによって、未来の展望は変わってきます。ダイバーシティは人材の可能性に目を向け

る、ただそれだけの話なのです。人材は有限だから、採用するとき、その人たちの持つ可能性はどこにあるかということに目を向けていくと、男性、女性ではなく、「こういう人材にこういうチャンスがあればいいかな」という考え方ができるのです。

—— アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）の捉え方についてアドバイスをいただけますか。

及川 自分の中にあるバイアスをなくするのは難しいけれど、気付くということは非常に大事です。これまでの自分の経験に基づいて染みついてしまったバイアスは別に悪いことではなくて、見方の癖なのです。時々自分とは違うバックグラウンドを持った方と話をし、自身のバイアスをチェックしてみることをお勧めします。バイアスがあることを受け入れた時に、自分とは違うものの見方をしている若い方、バックグラウンドや文化背景の様々な方、もちろん性別も含めて多様な人たちがいることに気付くわけですね。

—— 若者が活躍できる環境づく

りのためには、何が大切でしょうか。

及川 今の日本では、残念ながら若い方は少数派です。だとすると、少数派の声をよく聞くためには、少数派の意見に目を向ける姿勢が大切です。少数派の声を聞くことで、「あなたの声が大事ですよ」と伝えることができ、その対象は、女性、若者、障がいを持った方、病気を抱えている方など様々です。ダイバーシティでは、多数決ではなくて小さな声にもしっかりと目を向けながら対話し、包摂していくことが大切ですよ。

—— 最後になりますが、岩手県民へメッセージをいただけますか。

及川 岩手県は、豊かな自然があって、ありとあらゆるジャンルで多くの偉人を輩出しているすごい県だと思っています。何が岩手県人魂を育むのかと考えてみると、人を育てる土壌と「私らしく」を許容する風土にあるのかもしれない。岩手県には、「やってみよう」と思う人たちが集まり、挑戦する文化が根付いている。そんな土壌に幸せというエッセンスを加えることで、岩手の持つ力をより高めることができると考えています。

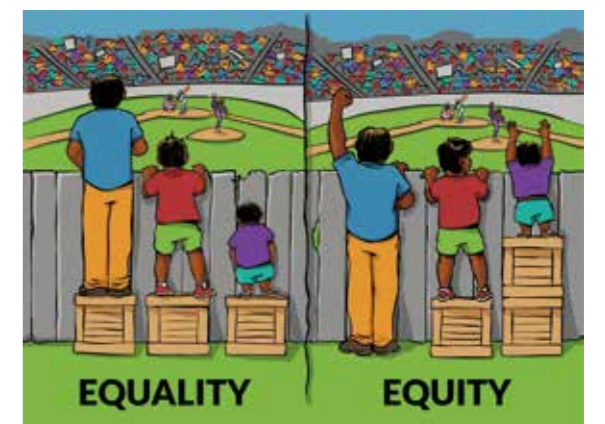
※1 「女性のエンパワーメント原則」

国連と国連グローバル・コンパクトと国連婦人開発基金が共同で作成した7原則。企業がジェンダー平等と女性のエンパワーメントを経営の核に位置付けて自主的に取り組むことで、企業活動の活力と成長の促進を目指して、女性の経済的エンパワーメントを推進する国際的な原則。

※2 ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン(DE&I)

多様性(Diversity)、公平性(Equity)、包摂性(Inclusion)を組み合わせた言葉。組織で働く多様な人材が、状況に合わせて必要なサポートを受けながら、一人ひとりが特性や強みを活かして最大限のパフォーマンスを発揮し、経営成果につながっている状態を目指す考え方のこと。

画像出典: "Interaction Institute for Social Change | Artist: Angus Maguire." January 13, 2016





INTERVIEW. ①

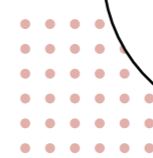
高校生ならではの行動力で、
自分たちのまちを盛り上げる

高校生まちおこし団体

INSPIRE

インスパイア

久慈市内の生徒が中心となって、2016年に活動をスタートした高校生まちおこし団体「INSPIRE(インスパイア)」。「高校生で街に彩りを」というテーマを掲げ、商店街と連携した「まちこえ放送」やイベントの開催、ボランティアなど、様々な活動を展開しています。失敗を恐れずチャレンジする彼女たちに、まちづくりに対する想いを聞きました。



— 最初に、INSPIRE初代メンバーから伴走支援をしている二又さん、INSPIREが立ち上がった経緯について教えてください。

二又 初代メンバーが2014年に久慈市の海外派遣事業に参加(当時中学生)した際に、久慈市について発表する時間があった、「自分たちのまちの良いところってなんだろうね」と話しているうちに「何となくまちが寂しくなっているよね」という話題になったそうです。その子たちが高校生になり、これ以上まちが寂しくならないように、にぎやかになるように、自分たちに何かできることがないかと思い、2016年にINSPIREを立ち上げ、商店街でイベント活動を始めました。団体名は、自分たちもやるけれど、自分たちがやっている姿を見て、たくさんの人に共感してもらって、みんなもまちについて考えてほしい、何かできることをしてほしいという思いから「鼓舞する」という言葉の「INSPIRE(インスパイア)」にしたそうです。

— メンバーの皆さんにお聞きします。まず、INSPIREに参加してみ

ようと思ったきっかけを教えてください。

長根 私たちは9代目になるのですが、8代目の先輩の方々が作ったINSPIRE募集のチラシを見たのがきっかけで、これまでの活動内容を調べてみると、まちおこしの活動をしていることがわかりました。楽しそうだったし、私は中学生の時に地域と関わり、どうやって外に情報発信していくのか勉強していたこともあり、まちおこし活動に生かせるかなと思って入りました。

篠山 INSPIREの活動内容を学校の先輩から聞いて、私がやりたいことをしているなと思ったこと、私も大学に進学するときに地元から離れることになるかもしれませんが、将来また戻ってきたいという気持ちになれるように、今から地元の良いところを発見していきたいと思って、入りました。

高柳 INSPIREではボランティア活動を通じてこの地域に関われるので、参加して自分が住んでいる地域について、いろいろ考えてみ

たいなと思って入りました。

外館 行事を企画して、地域を盛り上げようとしている先輩の姿を見てカッコいいな、自分もその1人になれるといいなと思って入りました。

— 地域の良いところや今のまちへの想いについて教えてください。

高柳 秋祭りや産業祭りなどの大きな行事では、地域の人々が一体となってワイワイやっているのが一番好きなおこし活動です。地域のどこが良いとか悪いとかINSPIREに入ったことで考え始めて、これまでも近くにあったのですが、空、海、山など自然があふれていて、きれいなところが良いところだと気づきました。特に夕陽の景色が一番の推しです。



INSPIRE(インスパイア)

2016年に活動を始めた高校生まちおこし団体。高校生の視点で課題解決につながるアイデアを実践。2023年には「全国高校生まちづくりサミット」を主催し全国の高校生と活動の意義を深めた。現在は9代目となる4名が、久慈市を知ってもらい、交流人口の拡大に向け、県外の高校生団体とイベント開催に向けて奮闘中。



ふたまた としひろ
二又 壽大

久慈市役所勤務。伴走支援のきっかけは初代メンバーの相談相手になったこと。久慈に行動を起こせる高校生がいることに驚きと、その考え方に感銘を受け、それ以来INSPIREのまちおこし活動に寄り添う。高校生から学ぶことも多く、新しい世界を見せてもらっているという。



ながね りゅうあ
長根 優杏さん



とだて わかな
外館 若奈さん

外館 確かにお祭りの時はにぎやかですが、普段は地域の中での交流やコミュニケーションが少ないと感じているので、世代関係なくお互いのことに興味を持ち合えるようになって、コミュニケーションが増えてほしいと思っています。

篠山 最近、若い人がオーナーの飲食店が少しずつですが増えてきていると感じています。若い人たちが帰ってきて集まって、地域を盛り上げようとしているところがすごくいいなと思っています。

— INSPIREでは月に1回、商店街で「まちこえ放送」の活動を継続しています。

長根 例えば高校の部活動の大会で活躍して良い成績を残したこ

となど、意外と地元の人知らないんだなと思っていたので、私たち9代目の最初のまちこえ放送では、吹奏楽部の子に来てもらって、大会の成績のことや抱負を話してもらいました。まちこえ放送の活動を通して、良いニュースをまちの人たちに届けて、そこからまちの人たちが若い世代の人たちと交流しやすくなるような環境や、関係に、将来はなってほしいと思います。

外館 地元の若い子たちが感じている嬉しかったことや驚いたことなど、日常の些細なことかもしれないけれど、まちこえ放送で話すことでクスッと笑ってくれたり、それが世代関係なく交流できるきっかけになるかもしれない。私たちの活動が、特別であるというような、距離があるような印象をなくして、子どもでも大人でも年齢に

関係なく身近に感じてほしい。そのためのまちの雰囲気づくりをしたいです。

高柳 最近の身近な話題や、私たち高校生の気持ちを地元の人たちに伝えられたらなという思いもあるし、同時にインスタライブ

もするので、県内の市町村だとか、県外の人たちにも私たちの活動や地域の良いところを知ってもらえたらという思いでやっています。

— 地域を盛り上げて、にぎやかにしていきたいという思いで活動しているINSPIREの今後の展望について教えてください。

外館 まずは自分が楽しんで活動したいです。そうすることで高校生の元気さや人の温かさが、より周りに、人から人に、伝わりやすくなると思います。まちづくりと聞くと「大人だけで」、というような印象があるけれど、私たちが活動することで大人に「大人だけじゃないですよ！私たち子どももいますよ！」という姿勢を見せられたらいいなと思います。高校生ができることは限られているけれど、その中で最大限やれることをやって、大人も子どもと一緒に希望や期待が抱けるようなまちづくりができるのが理想です。

高柳 大人が私たちのことを理解してくれれば、できることが広がってくると思います。この地域の人でも地域の魅力を知らないのではないかと感じるのがあって、地域の人々が地域を好きになってくれるように、これからもどんどんこの地域の魅力や良さを、ここに住んでいる人にも住んでいない人にも伝えていきたいです。

篠山 普通に過ごしていたら何もしないまま大学に進学して就職してしまうような気がしていましたが、INSPIREでは枠にはまることなく、自由に構想を練るところから

活動できることが、楽しいです。今は構想だけでは終わりたくないと思っていて、それが実現できないと何か物足りないな、という感じです。これからは私たちの活動をもっとたくさんの人に知ってもらい、みんなを巻き込んで地域全体を盛り上げるような活動をしていきたいし、みんなが地域のことを考えるきっかけになって、将来1人でも多くの人に「戻ってきたいな」と思ってもらえるようにしたいです。これからどんどん人口が少なくなって過疎化が進む地域では、大人と子どもが交流できるような場所が必要だと思います。

長根 高校生だけでやれることは限られています。周りのいろいろな大人と協力して、私たちがやりたいことがやれる場として将来につなげていきたいです。一方で、最近、私たちの中で「大人の考えていることをあまり知らないよね」という話がありました。だから、もっとお互いにこれから私たちのまちをどうしていきたいかを話し合える機会や、場所があると良いと思います。まちおこしに直接的に関係ないような情報でも、視点を変えたら何か良いアイデアにつながるかもしれないので、堅苦しくなく、気軽に集まれるような環境があるといいなと思っています。

— 最後に、INSPIREの活動を通じて、皆さんが感じる幸福について教えてください。

篠山 高校生という制限がある中で、地元を盛り上げるために何がで



たかやなぎ かな
高柳 佳奈さん



しのやま きりか
篠山 桐花さん

きるかを考えることができる場や時間があるのがすごく充実しているな、幸せだなと感じます。私たちのやりたいことを理解して、受け止めてくれる人がいないと活動できないと思うので、今、近くに「いいね」と言ってくれる大人がいることが、すごく幸せだなんて感じています。

高柳 メンバーが集まって、地域のどこが好きか、どこが悪いかと話したときに、「確かにそうだな」みたいな気付きがあったり、同じ方向を見て地域を良くしたいと思っている仲間と一緒に活動できるのは楽しいし、幸せなことだなと思います。いろいろな人たちと知り合うことができ、地域を良くするために、「こういうことをやりますか」と聞いてくれたり、やってくれたり、考えてくれたり、私たちを支えてくれる人がたくさんいて、それも幸せだなんて思いましたし、これからはそういう地域の人たちを支えていきたいと思いました。

外館 まちこえ放送の活動をしている時に、まちの外から来た方に話しかけてもらい、このまちやINSPIREに興味を持ってもらっていることがわかり、嬉しくてワクワクしました。「高校生である私たちの活動が、周りに伝わって、この地

域に来てくれたのかな」、「良い影響を与えられているのかな」と感じて、幸せだなと思いました。私の父が漁師で震災を経験したり、最近貝の出荷ができないなど辛くて悲しいことがありましたが、そんな中でも「今日はこんなことをしたよ！次はこんなことをする予定で計画なんだよ！」など家でINSPIREの活動のことを話すと、家族が笑顔で嬉しそうに「こういうのもいいんじゃない」と話が盛り上がったのも幸せだと感じました。

長根 INSPIREは自分が何かやりたいなって思ったことをやらせてもらえる場で、学校生活だけでは、感じたり、学んだりすることができないことを体験できていることに幸せを感じています。INSPIREへの参加が、地域の良さを考えるきっかけになりました。私たち9代目の活動は始まったばかりですが、今まで自分1人だけでは気付けなかったことを、みんなで考えて気付くことができました。にぎやかなまちづくりのために自分たちができることは何かということを考え、それが実現できたときはやっぱり楽しくて幸せなことじゃないかなと思います。



「まちこえ放送」
月に1回、久慈銀座商店会事務所前で行っている街頭放送とInstagramライブ配信。地域の話題や日々の活動を楽しいおしゃべりで発信している。



INTERVIEW. ②

ちょっと手を伸ばすだけで、
岩手にはたくさんの幸せがある

ナカヤエンターテイメント

田仲 美季

たなか みき

2021年に遠野市に移住した千葉県出身の田仲美季さん。地域おこし協力隊として、遠野の文化をテーマにしたデザインや商品開発を行う株式会社富川屋で活動した後、企画制作のディレクションや地域事業の魅力発信なども行っています。ここで出会った人々とのつながりや伝統芸能などを通して、変わらない強さと変化する柔軟性を内包する岩手の魅力や豊かさを実感したと話します。

—— 岩手県に移住した経緯を教えてください。

田仲 元々、父が会社を経営していることもあり、私も起業を経験してみたいと思っていました。世の中の常識やマナー、ビジネスの流れを学ぼうと思い、東京の大学を卒業し、就職先も東京の人材関係の会社を選びました。コロナ禍であった就職して2年目の異動が、ワークライフバランスを見直すタイミングとなり、転職を考えました。転職活動をしている中で、地方で働くことに目が向いたきっかけは、「ソトコト」という雑誌で、「地方とデザイン」というテーマの特集を読んだことでした。記事を読んでみて、「地方には何もないんじゃないか」というような、私の中のステレオタイプが払拭され、地方に住むイメージが湧きました。そこで、地域おこし協力隊として地域に入ることを考えていた時に出会ったのが、その当時、地域のデザインとプロデュースで協力隊の募集をかけていた、遠野市の株式会社富川屋でした。前に勤めていた会社では、私が営業で獲得したお客さんを別の担当部署に引

き継ぐため、最後まで担当することができない仕組みだったのですが、ここでは私の力が今必要とされて、それが上手く働いた時に誰が喜んでくれているのかがちゃんとわかる、そういったサイクルの中にいることがすごく良いなと思いました。これが、岩手を選んだ一つのきっかけです。

—— 他の候補地もある中で、なぜ遠野市に移住することに決めたのでしょうか。

田仲 協力隊採用担当の方から、「まずは実際に来てみると良いですよ。東北に住むのは初めてですし、町の雰囲気を見て来てみてはどうでしょうか」と言われたので、5日間だけでしたが、遠野に滞在してみました。まず、富川屋の方と話をしてみて、ここで仕事したらこんな感じだろうなというイメージ、仕事と職場の雰囲気が私に合うなという印象が持てました。その後は自由時間で、まちを歩くと、声をかけてくれる方がいたり、町内のシェアスペースで、移住者の方と地元の方が集まって食事をしていたところに飛び入りで

加させてもらえたりしました。私の中で、その光景の温かさがとても良い印象でした。また、富川屋の方も地域の郷土芸能の一つである“しし踊り”に参加しており、夜の練習に誘ってもらいました。見学だけのつもりで行ったところ、練習の場で地元の方に「踊ってみよう」と言われ、2日間練習に参加しました。この地域に来たら、私は1人にならない。富川屋という職場を超えて、私がこの地域に「来たい」と言ったら、「どうぞ」と言ってもらえるような場所があり、暮らしが見えるのが、すごく良いなと思いました。

—— 田仲さんは、遠野でディレクター業務、若手人材の育成、テレビのアナウンサーやライブ活動などもされています。様々な活動に込めた思いやその原動力とはなんでしょうか。

田仲 活動の原動力でいうと、「誰かが喜んでくれることが自分の喜びになること」、「一生懸命取り組んだことをちゃんと見守って、応援してくれる環境があること」です。私は元々、なんでも自分は自分のためにやっていて、あくまでも自分の満足のために行動していると考えていました。もちろん、そのベース自体は変わらないのですが、遠野に来て、原動力は他者にあることに気がきました。私が取り組んでいるその先にはいつも誰かがいるんです。遠野では、「美季ちゃん、来てくれてありがとう。あなたが来てくれて良かったよ」



たなか みき
田仲 美季

東京の大学を卒業後、人材会社勤務を経て「地域のデザインとプロデュース」活動を行う(株)富川屋へ。2021年10月遠野市へ移住後、地域文化ディレクターとして地域文化の魅力発信、イベント企画、商品開発、市民キャスター他、各種メディア出演、ライブ活動など活動は多岐に渡る。



と地元の方からお言葉をかけていただけたり、誰が喜んでくださっているのかが、ちゃんと見えます。私の原動力は「人」です。こんなに私の原動力に直結する良い場所はないですよ。

—— 田仲さんから見た、地方の持つ可能性、地方でこそできることとは何でしょうか。

田仲 例えば観光で言えば、昔はいかにお金をかけて贅沢をするかという時代から、今はその土地らしさを感じられる体験や、地元の人との交流が人気のある時代になり、世界の流れとしても、物質主義ではなくなってきていることをすごく感じます。都会育ちでも地方に向けて何かをしたいと思っている学生さんも増えていて、地方には、これまでにない新たな魅力や価値が生まれてきていると感じています。地方に矢印を向ける人は、地方出身で帰ってくる人だけでなく都会出身の人もある。

地方出身でも都会に住むことが向いている人もいれば、都会出身でも地方でのコミュニケーションがとても得意な人もいると思うと、生まれた場所に左右されない多様な生き方がどんどん主流になってくるのかなと思っています。地方が都市化することで、その地方が持つ本来の魅力が損なわれてしまい、特色の薄い、同じような町が増えてきてしまうのはもったいないと思うのです。これまでの価値が見直される時代、これからの世の中の流れの中で、岩手本来の魅力がわかる人たちは、きっとその魅力を大切にしていけるのだと思います。どこかの真似をするのではなく、岩手らしさを伸ばすことが最も重要だと思います。岩手の文化でいうと、多くの郷土芸能が東北、なかでも岩手県に残っていることはすごいことです。私も参加しているしし踊りや、神楽などといった郷土芸能はものすごい力を持っていると思っています。約400年の歴史と伝統が

あり続けてきたものを間近に見たり、実際にやることできる。これが岩手の強みだと思っています。長い時間をかけて続けてきたものというのは、何にも代えがたいものだと思っています。私はこういうところにまだまだ人の目が向いていないことがもったいないと思います。その尊さや素晴らしさに気づき、こういうものを大事にできると良いですよ。簡単に何か新しいものを入れてしまうのは、とても危険だと思います。なくなっているものもたくさんある中で、これだけわかりやすく様々な文化が残っていることが、岩手あるいは地域の可能性だと思います。

—— 田仲さんの今後の展望をお聞かせください。

田仲 4月を目途に独立して仕事をしたいと考えています。あとは、3年間遠野にいて、今一番の目標になっているのが、シンプルで小さくて大きい話だと思っ



ていますが、自分の次の世代が、しし踊りを舞っているところを見たいということです。本当に岩手が好きで、ずっと居たいと思ったら、何十年、何百年とみんなが歴史の糸を紡いできた文化の一部になることが一番の夢だと私は思っています。仕事は1人で起業してどうにかしていくことができるかもしれないけれど、その先にある暮らしは、最も身近で、当たり前のようなもので、でも実は1人では叶えられない、最も大きなものである気がしています。人の成長とずっと向き合っていく、家族のような存在の人々は、すごく大きな単位だと感じました。このまちで大きな意味で一つの家族となって、地域と共生し、次の世代の子どもたちがしし踊りを舞うことができる未来をつくりあげることができれば、それが地域への恩返しにもなるのではないかと思います。何百年も続いてきたしし踊りをこれから先も守っていくためには、自分たちがそのバトンをつなぐ必要がありま

す。この土地の一部になっていくことに、私は今すごく魅力を感じています。

—— 最後に、田仲さんにとっての幸福について教えてください。

田仲 地方には何もないと言う方々もいますが、むしろなんでもある。手が届きやすい範囲に幸せがある場所だと思ってすごく思います。近くに海があって山があって、空気が美味しい、水がきれい、魚が食べられて、山の恵みがあることは、人間本来の生き方をするのにポテンシャルがとても高い環境だと思っています。都会で金属やコンクリートといった自然物ではないものと共生していると、本来の人として、何かを見失ってしまうこともたくさんある

かもしれませんが、ここでは心に余裕を持って人間らしく過ごせている気がします。どうして岩手にずっと居たいと思っているのか考えてみると、地域に根付いて、その文化に根付いて、たくさんの人に会いながら自分と照らし合わせていく作業が面白いからだと思います。自然の豊かさが人の豊かさにつながっていて、ここ遠野で昔から守り継がれている神様のような、目に見えないものが息づいている安心感があるのも幸せだなと思っています。



いわて県民計画（2019～2028） 第2期アクションプランの概要

いわて県民計画（2019～2028）の理念

- 県民一人ひとりがお互いに支え合いながら、幸福を追求していくことができる地域社会の実現を目指し、幸福を守り育てるための取組を進めること
- 地域社会を構成するあらゆる主体が、それぞれ主体性を持ち、共に支え合いながら岩手県の将来像を描き、その実現に向けて、みんなで行動していくこと
- 社会的に弱い立場にある方々が孤立することのないように、社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）の観点に立った取組を進めること

いわて県民計画（2019～2028）の基本目標

東日本大震災津波の経験に基づき、引き続き復興に取り組みながら、お互いに幸福を守り育てる希望郷いわて

いわて県民計画（2019～2028）の構成

長期ビジョン

長期的な岩手県の将来を展望し、県民みんなで目指す将来像と、その実現に向けて取り組む政策の基本方向を明らかにするものです。〔計画期間：2019年度から2028年度までの10年間〕

アクションプラン

長期ビジョンの実効性を確保するため、重点的・優先的に取り組むべき政策や具体的な推進方策を盛り込むものです。

第2期アクションプランの計画期間等

計画期間

令和5年度から令和8年度までの4年間

構成

長期ビジョンの内容及びこれまでの構成等を踏まえ、「復興推進プラン」「政策推進プラン」「地域振興プラン」「行政経営プラン」で構成

第2期政策推進プランの重点事項

- 第2期政策推進プランにおいては、新型コロナウイルス感染症の影響、人口減少の進行、デジタル化の進展、温室効果ガス排出量の2050年度実質ゼロなど、直面する課題に的確に対応し、施策を強化します。
- 第1期政策推進プランの成果と課題、市町村長との意見交換、関係団体等からの御意見・御提言を踏まえ、第2期政策推進プランでは、人口減少対策を最優先で取り組むべきものと位置付けています。
- 4つの重点事項を掲げ、10の政策分野や11のプロジェクトなど、県民計画に基づく施策を着実に推進します。

【重点事項1】

性別にかかわらず誰もが活躍できる環境づくりを進めながら、結婚・子育てなどライフステージに応じた支援や移住・定住施策を強化します

- 性別にかかわらず誰もが活躍できる環境づくりを進めるとともに、産業政策を総合的に展開し一人ひとりの能力を発揮できる多様な雇用の確保を進めながら、結婚・妊娠・出産、子育てへの支援などの自然減対策や、若年層の県内就職、移住・定住の促進などの社会減対策を強化します。
- 市町村や関係団体等と連携し、県民運動等による社会全体の機運醸成を行い、安心して子どもを産み育てられる環境の充実にオール岩手で取り組んでいきます。

【重点事項2】

GX(グリーン・トランスフォーメーション)を推進し、カーボンニュートラルと持続可能な新しい成長を目指します

- 再生可能エネルギーの導入促進、森林整備や県産木材の利用促進など森林資源の循環利用、省エネ住宅の普及を進めるなど、地域経済と環境に好循環をもたらす持続可能な新しい成長を目指しながら、誰もが住みたいと思えるふるさとを次世代に引き継いでいきます。
- 県民、事業者、行政が一体となり、温室効果ガス排出削減目標の達成に向け県民運動を展開します。

【重点事項3】

DX(デジタル・トランスフォーメーション)を推進し、デジタル社会における県民の暮らしの向上と産業振興を図ります

- 全ての県民がDXの恩恵を享受できるよう、「行政のDX」「産業のDX」「社会・暮らしのDX」「DXを支える基盤整備」の4つの取組方針のもと、あらゆる産業のDXの促進、県民生活の利便性の向上、情報通信インフラの整備、市町村への支援を進めます。

【重点事項4】

災害や新興感染症など様々なリスクに対応できる安全・安心な地域づくりを推進します

- 東日本大震災津波や新型コロナウイルス感染症の経験を踏まえ、様々なリスクに対応できる安全・安心な地域づくりを推進します。

第2部

「希望郷いわて」の今

第2部の概要

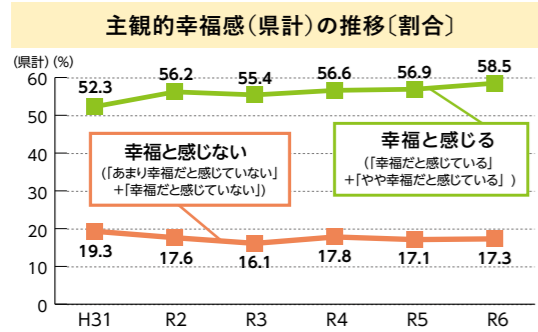
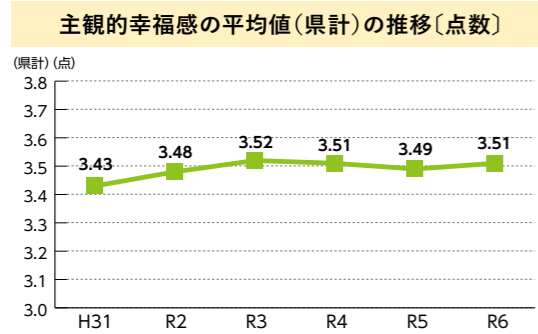
第2部では、県民の幸福感の現状や、県民の幸福度の向上に向けた県の取組や成果を紹介します。
 県民の幸福感の現状については、毎年実施している県民意識調査^(注1)の調査結果の中から、「主観的幸福感」、
 「幸福かどうかを判断する際に重視した事項」、「分野別実感^(注2)」の結果を掲載しています。
 県民の幸福度の向上に向けた県の取組や成果については、28ページ以降、「いわて県民計画(2019～2028)」(以下「いわて県民計画」という。)に掲げる10の政策分野ごとの政策評価の結果をダイジェストで掲載しています。
 なお、10の政策分野の概要は、26ページをご覧ください。

県民の幸福感の現状

主観的幸福感

県民意識調査で、「あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか。」という設問に対し、5段階で把握したものです。

その結果、「幸福だと感じている」から「幸福だと感じていない」までの5段階の選択肢に応じて5点から1点を配点したところ、県全体の平均値は、5点満点中3.51点となりました。



幸福かどうかを判断する際に重視した事項

県民意識調査で、「あなたが幸福かどうか判断する際に重視した事項は何ですか。」という設問に対し、下表の17の項目から該当する全てを選択いただき、把握したものです。

その結果、幸福かどうか判断する際に重視する割合が高い順に「健康状況」、「家族関係」となっています。



分野別実感

県民意識調査で、「現在のあなたご自身のことについて、おたずねします。」という設問に対し、10の政策分野に関する下表の12の項目に対する実感を回答いただいたものです。

第2期アクションプラン・政策推進プランの開始前である令和5年を基準(以下「基準年」という。)とした場合、令和6年の分野別実感は、1分野で上昇、11分野で横ばいとなり、低下した分野はありませんでした。

実感の平均値が高い順に、「自然のゆたかさ」、「家族関係」、「地域の安全」となっており、「自然のゆたかさ」の実感、4点を超えています。

なお、下表には参考として、いわて県民計画の開始前である平成31年の平均値も示しています。

| 政策分野 | 分野別実感 | 平均値の推移 | | | |
|----------------|---------------|----------------|-------------|-------------|-----------|
| | | H31 (計画開始年) | R5 (基準年) | R6 (当該年) | R5とR6の差 |
| I 健康・余暇 | (1)心身の健康 | 3.00 | 3.18 | 3.22 | - (0.05) |
| | (2)余暇の充実 | 3.05 | 2.93 | 3.02 | ↑ (0.09) |
| II 家族・子育て | (3)家族関係 | 3.84 | 3.91 | 3.88 | - (△0.03) |
| | (4)子育て | 3.08 | 3.06 | 3.03 | - (△0.03) |
| III 教育 | (5)子どもの教育 | 3.10 | 3.14 | 3.13 | - (△0.01) |
| IV 居住環境・コミュニティ | (6)住まいの快適さ | 3.34 | 3.29 | 3.31 | - (0.02) |
| | (7)地域社会とのつながり | 3.35 | 3.07 | 3.10 | - (0.03) |
| V 安全 | (8)地域の安全 | 3.82 | 3.69 | 3.66 | - (△0.03) |
| VI 仕事・収入 | (9)仕事のやりがい | 3.54 | 3.39 | 3.39 | - (0.00) |
| | (10)必要な収入や所得 | 2.65 | 2.53 | 2.48 | - (△0.05) |
| VII 歴史・文化 | (11)歴史・文化への誇り | 3.28 | 3.23 | 3.28 | - (0.06) |
| VIII 自然環境 | (12)自然のゆたかさ | 4.21 | 4.21 | 4.21 | - (0.00) |

(注)①()は基準年調査との差。なお、四捨五入の関係から年平均値とその差の合計が一致しない場合があります。
 ② t検定の結果、5%水準で有意な変化が確認できたものは、網掛けと矢印で表記しています。

岩手県の政策評価

県では、いわて県民計画の実効性を高めていくため、政策評価を実施しています。

10の政策分野の政策評価では、各政策分野に設定した、幸福に関連する客観的指標(いわて幸福関連指標)の達成状況に加え、県民意識調査で把握した政策分野ごとの実感、参考指標^(注3)、社会経済情勢等を踏まえ、総合的に評価をしています。

| 評価区分 | 10の政策分野の総合評価の基本的な考え方 | (※) 指標達成度の判定区分 |
|------|---|--|
| A | 政策分野ごとに、全ての指標が目標達成率80%以上(指標達成度 ^(※) 【A】又は【B】)であり、政策分野を取り巻く状況などを踏まえ、政策分野の取組方向の実現に向け順調に進んでいることから、引き続き取組を推進するもの。 | 【A】100%以上 【B】80%以上 100%未満 【C】60%以上 80%未満 【D】60%未満 |
| B | 政策分野ごとに、目標達成率80%以上の指標が半数以上であり、政策分野を取り巻く状況などを踏まえ、政策分野の取組方向の実現に向け概ね順調に進んでおり、一部見直しを行いながら、引き続き取組を推進するもの。 ※全ての指標が目標達成率80%以上であっても、県民の実感が基準年(R5年)と比べ「低下」している場合にはBとする。 | |
| C | 政策分野ごとに、目標達成率80%以上の指標が半数未満であり、政策分野を取り巻く状況などを踏まえ、政策分野の取組方向の実現に向けあまり順調に進んでいないことから、一部見直しのほか、より効果的な取組を検討するなど、一層の施策の推進が必要なもの。 ※目標達成率80%以上の指標が半数以上であっても、県民の実感が基準年(R5年)と比べ「低下」している場合にはCとする。 | |
| D | 政策分野ごとに、目標達成率60%未満(指標達成度【D】)の指標が半数以上であり、政策分野を取り巻く状況などを踏まえ、政策分野の取組方向の実現に向け順調に進んでいないことから、見直しや改善を行うなど、更なる重点的な施策の推進が必要なもの。 | |

(注1) 県民意識調査について

県では、県の施策に対する実感などを把握するため、「県の施策に関する県民意識調査」を実施しています。
 調査の概要は次のとおりです。

- ①調査対象 県内に居住する18歳以上の男女
- ②対象者数 5,000人
- ③抽出方法 選挙人名簿からの層化二段無作為抽出
- ④調査方法 設問票によるアンケート調査(郵送法)
- ⑤調査時期 毎年1～2月
- ⑥回収率 令和6年調査は57.2%(2,861人/5,000人)

(注2) 分野別実感(政策分野ごとの実感)について

県民意識調査では、政策分野に関連する実感を把握し、各政策分野の政策評価に活用しています。
 なお、県民の幸福を支える共通土台として設定した「IX社会基盤」、「IX参画」の2分野については、関連する実感を把握していません。

(注3) 参考指標について

県民の幸福に関連する統計データであるものの、毎年実績値を把握できないものや、個人の選択の自由に関連するものなど、目標値を設定して管理することになじまない統計データについては、「参考指標」として位置付けています。

政策推進の基本方向

「10の政策分野」のもと
一人ひとりの幸福を守り育てる取組を展開していきます。

県民一人ひとりがお互いに支え合いながら、幸福を追求していくことができる地域社会を実現していくため、多様性の視点や社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）の視点を重視しながら、地域社会を構成する県民・企業・NPO・市町村など様々な主体とともに、「10の政策分野」の取組を展開していきます。

I 健康・余暇分野 (P28~)

健康寿命が長く、いきいきと暮らすことができ、また、自分らしく自由な時間を楽しむことができる岩手を目指します。

II 家族・子育て分野 (P31~)

家族の形に応じたつながりや支え合いが生まれ、また、安心して子育てをすることができる岩手を目指します。

III 教育分野 (P34~)

学びや人づくりによって、将来に向かって可能性を伸ばし、自分の夢を実現できる岩手を目指します。

IV 居住環境・コミュニティ分野 (P37~)

不便を感じないで日常生活を送ることができ、また、人や地域の結び付きの中で、助け合って暮らすことができる岩手を目指します。

V 安全分野 (P40~)

災害をはじめとした様々なリスクへの備えがあり、事故や犯罪が少なく、安全で、安心を実感することができる岩手を目指します。

VI 仕事・収入分野 (P43~)

農林水産業やものづくり産業などの活力ある産業のもとで、安定した雇用が確保され、また、やりがいと生活を支える所得が得られる仕事につくことができる岩手を目指します。

VII 歴史・文化分野 (P46~)

豊かな歴史や文化を受け継ぎ、愛着や誇りを育んでいる岩手を目指します。

VIII 自然環境分野 (P48~)

一人ひとりが恵まれた自然環境を守り、自然の豊かさとともに暮らすことができる岩手を目指します。

IX 社会基盤分野 (P51~)

防災対策や産業振興など幸福の追求を支える社会基盤が整っている岩手を目指します。

X 参画分野 (P53~)

男女共同参画や若者・女性、高齢者、障がい者などの活躍、幅広い市民活動や県民運動など幸福の追求を支える仕組みが整っている岩手を目指します。

「県民の幸福度の向上に向けた県の取組や成果」の見方

●政策分野の総合評価
いわて幸福関連指標の状況、政策分野に係る県民の実感、政策分野の取組状況、他の主体の取組状況についてまとめた上で、当該政策分野の総合評価をA B C Dの4段階で判定したものを記載しています。

●政策分野名
10の政策分野名と政策分野の取組方向を記載しています。

●いわて幸福関連指標の達成状況^(注)
いわて幸福関連指標の目標値や令和5年度の値などを記載しています。
●囲み数字は掲載データの年度を表しています。
●実績値や順位を測定できない指標は「―」と表示しています。

●いわて幸福関連指標の達成度
政策分野ごとのいわて幸福関連指標の達成度の構成比と指標数を円グラフで表示しています。
※構成比は、端数四捨五入の計算のため、100%にならない場合があります。

●全国順位(東北順位)
いわて幸福関連指標の、全国順位・東北順位を令和3年度現状値と比較しています。

●取組状況
政策分野を推進するための令和6年度の県の取組状況を記載しています。

●今後の取組方向
政策分野を推進するため、今後の取組方向を記載しています。

●参考指標
いわて幸福関連指標を補完するために設定した参考指標の状況を記載しています。

●県民意識調査の結果(分野別実感の状況)
令和6年度県民意識調査で得られた分野別実感の平均値の状況を記載しています。
【分野別実感の平均値の算出方法】
各調査項目の回答について、「感じる」を5点、「やや感じる」を4点、「どちらともいえない」を3点、「あまり感じない」を2点、「感じない」を1点とし、それぞれの選択者数を乗じた合計点を、全体の回答者数(「わからない」、「不明(無回答)」を除く)で除し、数値化したものです。
【比較】
分野別実感の平均値について、基準年(R5)との比較において、次の結果であったものを記載しています。
上昇：t検定の結果、5%水準で有意な変化が確認でき、上昇した場合
横ばい：t検定の結果、5%未満で有意な変化が確認できなかったもの
低下：t検定の結果、5%水準で有意な変化が確認でき、低下した場合

【政策評価の結果】

| 政策分野 | 総合評価 | 達成度 | 指標数 |
|-------|------|------|-----|
| 健康・余暇 | A | 100% | 3 |

【いわて幸福関連指標の達成状況】

| 指標名 | 単位 | 令和5年度 | 令和6年度 | 達成率 | 順位 |
|------------------|----|-------|-------|-----|----|
| 64 世界遺産等の保存状況 | 千人 | 417 | 991 | 712 | A |
| 65 県立歴史博物館 | 件 | 574 | 589 | 584 | A |
| 66 県民意識調査(分野別実感) | 指標 | 393 | 393 | 422 | A |

【参考指標】

| 指標名 | 令和5年度 | 令和6年度 | 達成率 |
|-----------|-------|-------|--------|
| 23 森林整備状況 | % | 74.6 | 5年連続改善 |

【県民意識調査の結果(分野別実感の状況)】

| 調査項目 | 令和5年度 | 令和6年度 | 変化 |
|-----------------|-------|-------|-----|
| 自然に恵まれていると感じますか | 4.21 | 4.21 | 横ばい |

【今後の主な取組内容】

- 県内の野生動物を保護するため、ハヤネのスクリーン等の生息状況の調査や、イヌワシの巣への侵入を防止するための措置等による繁殖環境の改善に取り組みます。
- 令和6年4月にツキノフグが新たに指定管理種に指定されたことを踏まえ、クマによる人身被害を防止するため、生息地の調査や個体数管理を目的とした捕獲等に取り組みます。
- 三陸ジオパークが世界自然遺産の候補地として選定されたこと、これらで三陸ジオパークを活用した観光等の発展による観光促進を図る。観光に合わせた観光インフラ整備と県内各地域間の情報発信や世界遺産のジオパークとの交流によるネットワーク活動に取り組みます。
- 「環境化法(いわて環境法)」を中核として、事業者等参加による環境運動を推進するとともに、地域経済と観光の好循環に向けて、市町村や関係事業者等との連携による、地域に特化した環境活動を進め、観光客の誘致を図ります。
- 県町村等に対する地域の発展に資する人材育成の推進、支援に取り組むとともに、事業者による食品廃棄物やプラスチック等の廃棄物の発生抑制、リサイクル等に資する製品・技術開発等の支援に取り組みます。

(注) 10の政策分野に対応するいわて幸福関連指標達成状況の見方
いわて幸福関連指標の指標名や目標値、令和5年度の目標に対する達成率などを記載しています。
【目標達成率の計算式】
・通常の指標(R3現状値等から数値を上げる目標の場合)
 $(R5実績値 - R3現状値) / (R5目標値 - R3現状値) \times 100$
・マイナス指標(R3現状値等から数値を下げる目標の場合)
 $(R3現状値 - R5実績値) / (R3現状値 - R5目標値) \times 100$
・維持指標等(R3現状値等を維持する目標の場合)
 $(R5実績値) / (R5目標値) \times 100$ 又は $(R5実績値) / (R5実績値) \times 100$
※なお、現状値がない指標など、この計算式により難い場合は、次の計算式により算出しています。
 $目標達成率 = (R5実績値) / (R5目標値) \times 100$

| 指標達成度 | 目標達成率 |
|--------|-------------|
| 達成 A | 100%以上 |
| 概ね達成 B | 80%以上100%未満 |
| やや遅れ C | 60%以上80%未満 |
| 遅れ D | 60%未満 |

県民の幸福度の向上に向けた県の取組や成果

健康・余暇

健康寿命が長く、いきいきと暮らすことができ、
また、自分らしく自由な時間を楽しむことができる岩手



令和6年度の取組と今後の取組方向

[取組状況]



循環器病等予防緊急対策事業
～食生活改善キャンペーン事業～

県民の減塩・適塩等の意識の醸成を図るためのキャンペーン活動や野菜摂取量測定装置を用いた食生活の行動変容支援を行っています。



岩手県訪問看護総合支援センターの開所

患者やそのご家族が住み慣れた地域で療養生活を継続できるよう、岩手県看護協会が主体となり、訪問看護提供体制の強化を図る拠点「岩手県訪問看護総合支援センター」を開所しました。



いわて認知症希望大使
(愛称:いわてオレンジ大使)

認知症になっても希望を持って暮らせる共生社会を創っていくため、認知症の方本人が自らの経験等を発信し、認知症に対する社会の理解を深める活動を行う「いわて認知症希望大使」を本県で初めて委嘱しました。



岩手芸術祭総合フェスティバル

県民の芸術文化活動の祭典である岩手芸術祭の開催にあわせて、オンライン配信を取り入れた「岩手芸術祭総合フェスティバル」を開催しました。



卓球バレー交流大会

障がいの有無や年齢、性別、国籍等を問わず、共に楽しむことができるインクルーシブ（共生社会型）スポーツを推進するため、卓球バレー交流大会を開催しました。



震災・防災の学び合いスペース「I-ルーム」

復興・防災に関する研修会の開催や高校生等のグループによる探究的な学びの場として、県立図書館内の「I-ルーム」が活用されています。

今後の主な取組内容

- 県民の主要な死亡原因である脳卒中、心臓病等の循環器病の発症予防、早期発見、重症化予防を推進し健康寿命を延ばすため、生活習慣の改善に向けた県民機運の醸成や血圧管理等の実践モデルの紹介、野菜摂取量測定装置を用いた野菜摂取量の見える化による食生活の行動変容等に取り組みます。
- 自殺者が多い傾向にある働き盛り世代や高齢者の自殺対策を推進するため、職場におけるメンタルヘルス推進セミナーのオンラインによる連続講座や地域住民を対象としたゲートキーパー養成研修の実施による自殺予防の啓発強化及び相談支援体制の充実に取り組みます。
- 県民の安心を確保するとともに、消防や医療機関の負担軽減を図るため、医療機関の受診や救急車の要請に迷う場合の電話相談窓口 #7119 を設置して、県民の適切な受診行動の促進に取り組みます。
- 介護人材不足に対応し、介護サービスの質の向上につなげていくため、地域課題等について共有・意見交換する会議を開催するとともに、業務改善等の相談や支援等にワンストップで対応する「介護生産性向上総合相談センター（仮称）」を設置し、関係機関・団体等と情報共有・連携しながら、介護事業所の業務改善・業務効率化、人材確保等の支援に取り組みます。
- 障がい者スポーツ等の一層の推進を図るため、インクルーシブスポーツに取り組もうとする市町村に対して、地域の拠点となる市町村から指導員を派遣し、指導者の養成と体験教室を開催するなど、更なる普及啓発に取り組みます。

令和6年度の評価結果

[政策評価の結果]

| 健康・余暇分野の評価結果 | 評価の説明 |
|----------------------|---|
| C | <ul style="list-style-type: none"> ● いわて幸福関連指標 11 指標は、達成度Aの指標が5指標 (45%)、達成度C、Dの指標が6指標 (55%) でした。 ● この政策分野に係る県民の実感は、「心身の健康」が横ばい、「余暇の充実」が上昇しました。 ● この分野の取組状況は、介護や支援が必要になっても、住み慣れた地域で安心して生活できる環境づくりや、生涯を通じて学び続けられる場づくりの取組が進みましたが、生涯にわたり心身ともに健やかに生活できる環境づくりや、必要に応じた医療を受けることができる体制の充実に関する取組については、遅れが見られています。 ● この政策分野に係る他の主体の取組状況は、市町村において、高齢者福祉計画及び介護保険事業計画に基づき、生活支援、介護予防等の仕組みづくりや介護サービス基盤の整備など、地域の実情に応じた地域包括ケアシステムの深化・推進に向けた取組が進められているほか、コミュニティ・スクールの仕組みを生かした学校運営や地域づくりが進んでいるなど、県以外の主体においても取組が推進されています。 ◎ 以上の結果及び取り巻く状況を踏まえ、Cと判断しました。 |
| <p>いわて幸福関連指標の達成度</p> | |

[いわて幸福関連指標の達成状況]

| 指標名 | 単位 | 現状値 (R3) | 計画目標値 (R8) | 年度目標値 (R5) | 実績値 (R5) | 達成度 | 参考) 全国順位(東北順位) | | |
|----------------------------------|----|---------------|------------|------------|----------|-----|----------------|---------|----|
| | | | | | | | R3 | R5 | 比較 |
| 1 健康寿命(平均自立期間) | 年 | 男性 ② 80.03 | ⑦ 81.00 | ④ 80.42 | ④ 79.64 | D | — | — | — |
| | | 女性 ② 84.59 | ⑦ 85.41 | ④ 84.92 | ④ 84.25 | D | — | — | — |
| 3 がん、心疾患及び脳血管疾患で死亡する人数(10万人当たり) | 人 | 男性 ② 283.4 | ⑦ 245.8 | ④ 266.6 | ④ 278.9 | D | — | — | — |
| | | 女性 ② 154.5 | ⑦ 120.9 | ④ 131.9 | ④ 151.1 | D | — | — | — |
| 5 自殺者数(10万人当たり) | 人 | 16.2 | 14.6 | 15.0 | 20.2 | D | 20位(1位) | 44位(5位) | ↓ |
| 6 75歳以上85歳未満高齢者の要介護認定率 | % | 12.3 | 11.3 | 11.9 | 11.5 | A | — | — | — |
| 7 訪問診療(歯科含む)・看護を受けた患者数(10万人当たり) | 人 | ② 6,508 | ⑦ 7,210 | ④ 6,781 | ④ 6,946 | A | — | — | — |
| 8 余暇時間(一日当たり) ^{※1} | 分 | 372 | 382 | 382 | 396 | A | — | — | — |
| 9 県内の公立文化施設における催事数 ^{※2} | 件 | — | 1,471 | 1,223 | 1,798 | A | — | — | — |
| 10 スポーツ実施率 | % | ② 65.4 | ⑦ 70.0 | ④ 67.2 | ④ 66.8 | C | — | — | — |
| 11 生涯学習に取り組んでいる人の割合 | % | 46.1 | 50.0 | 47.0 | 47.0 | A | — | — | — |

※1 休日を含む1週間の平均

※2 岩手県内公立文化施設協議会加盟施設のうち、各市所在の主な14施設の催事数

【参考指標】

| 調査項目 | 単位 | 現状値(R3) | R5 | 備考 |
|----------------------|----|------------|--------|---------|
| 1 健康寿命(日常生活に制限のない期間) | 年 | 男性 ① 71.39 | — | 3年ごとの公表 |
| | | 女性 ① 74.69 | — | 3年ごとの公表 |
| 3 喫煙率 | % | ① 20.9 | ④ 19.0 | 3年ごとの公表 |

[県民意識調査の結果(分野別実感の状況)]

| 調査項目 | 分野別実感の平均値 | | | |
|----------------------------------|-----------|---------|---------|---------|
| | 参考[H31] | 基準年[R5] | 実績値[R6] | 基準年との比較 |
| (心身の健康) こころやからだ が健康だと感じますか | 3.00 | 3.18 | 3.22 | 横ばい |
| (余暇の充実) 余暇が充実している と感じますか | 3.05 | 2.93 | 3.02 | 上昇 |

県民の幸福度の向上に向けた県の取組や成果

II 家族・子育て

家族の形に応じたつながりや支え合いが生まれ、
また、安心して子育てをすることができる岩手



令和6年度の取組と今後の取組方向

[取組状況]



「i-サポ」のマッチングシステムの機能充実

成婚数増加に向けて結婚支援を強化するため、「i-サポ」のマッチングシステムに、性格診断、趣味検索、自宅閲覧などの機能を追加し、出会いの機会の創出に取り組んでいます。



こどもの遊び場整備の充実

悪天候時や冬季でも未就学児が安心して遊べるよう、市町村と連携して、既存の公共施設や民間施設への屋内遊び場の整備を推進しています。



県立野外活動センターにおける体験活動

子どもたちの体験活動の充実のため、県立野外活動センターでは、自然に親しみ、興味・関心を高める事業を実施しています。



いわて希望塾

心豊かで意欲に満ちた人材を育成するため、県内中学生を対象とした一泊二日の体験交流事業を実施し、「岩手の将来」について、グループディスカッション等を行いました。



いわて働き方改革AWARD2024

働き方改革を全県的に推進するため、「いわて働き方改革AWARD2024」を開催し、優良企業等の表彰、受賞企業による事例発表及び外部講師による基調講演を行いました。



動物愛護フェスティバル

動物愛護に対する県民の理解を深めるため、岩手県獣医師会や動物愛護団体等と連携し、動物愛護週間の行事として、「動物愛護フェスティバル」を開催しました。

今後の主な取組内容

- 本県の子ども・子育て支援に関する基本的な計画となる「いわてこどもプラン（2025～2029）」に基づき、こどもを中心に、地域社会全体で子育てする方々やこどもを温かく見守る環境づくりを目指し、本県のこども施策を総合的に推進します。
- 成婚数増加に向けて、結婚支援を強化するため、“いきいき岩手”結婚サポートセンター「i-サポ」の会員を対象とした婚活スキルアップセミナーを新たに実施するほか、引き続き「結婚支援コンシェルジュ」の配置等による交際から成婚に至るまでのフォローアップ、企業・市町村等と連携したイベントの開催等による出会いの場の創出に取り組みます。
- 新卒保育士の県内への就職等を促進するため、保育士資格の取得を目指す学生に対する修学資金の貸付枠の拡大及び就職活動準備金貸付の新設により、保育人材の確保に取り組みます。
- 柔軟で多様な働き方の普及を図り、若者や女性に魅力ある雇用・労働環境の整備の促進に向けて、所定内労働時間の短縮や子育てしやすい環境の整備に加え、新たにリスキリングの推進に対する支援に取り組みます。
- 県が保護する動物の返還・譲渡を推進し、殺処分ゼロを目指すとともに、動物愛護の普及啓発を推進するため、県と盛岡市が一体となって動物愛護管理センターの整備を進めるとともに、県全域において、一体的かつ効果的な動物愛護管理体制の整備を推進します。

令和6年度の評価結果

〔政策評価の結果〕

| 家族・子育て分野の評価結果 | 評価の説明 |
|--|--|
| <div style="font-size: 2em; font-weight: bold; color: #e67e22;">B</div> <p>いわて幸福関連指標の達成度</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● いわて幸福関連指標7指標は、達成度A、Bの指標が4指標（57%）、達成度Dの指標が3指標（43%）でした。 ● この政策分野に係る県民の実感は、「家族関係」、「子育て」がともに横ばいでした。 ● この分野の取組状況は、地域やコミュニティにおける学校と家庭、住民が協働した子どもの育ちと学びへの支援や、動物のいのちを大切に作る社会づくりの取組が進みましたが、安心して子どもを産み育てられる環境づくりや、仕事と生活を両立できる環境づくりの取組については、遅れが見られています。 ● この政策分野に係る他の主体の取組状況は、NPOや地域の民間団体、住民有志など、様々な主体による子どもの居場所づくりの取組が広がるなど、県以外の主体においても取組が推進されています。 ◎ 以上の結果及び取り巻く状況を踏まえ、Bと判断しました。 |

〔いわて幸福関連指標の達成状況〕

| 指標名 | 単位 | 現状値 (R3) | 計画目標値 (R8) | 年度目標値 (R5) | 実績値 (R5) | 達成度 | 参考) 全国順位 (東北順位) | | |
|----------------------------|----|----------|------------|------------|----------|-----|-----------------|----------|----|
| | | | | | | | R3 | R5 | 比較 |
| 12 合計特殊出生率 | | 1.30 | 1.58 | 1.35 | 1.16 | D | 36位 (4位) | 39位 (4位) | 👉 |
| 13 待機児童数 [4月1日時点] | 人 | 12 | 0 | 0 | 27 | D | 19位 (4位) | 30位 (5位) | 👉 |
| 14 地域の行事に参加している生徒の割合 [中学生] | % | 62.9 | 64.0 | 64.0 | 52.0 | B | 3位 (1位) | 4位 (1位) | 👉 |
| 15 総実労働時間 [年間] | 時間 | 1,761.6 | 1,633.0 | 1,710.1 | 1,742.4 | D | 44位 (3位) | 45位 (4位) | 👉 |
| 16 共働き世帯の男性の家事時間割合 [過平均]* | % | 39.2 | 50.0 | 42.5 | 43.0 | A | — | — | — |
| 17 犬、猫の返還・譲渡率 | % | 犬 100 | 100 | 100 | 100 | A | — | — | — |
| | | 猫 98.8 | 100 | 99.1 | 100 | A | — | — | — |

* 女性の家事時間に対する割合

【参考指標】

| 調査項目 | 単位 | 現状値 (R3) | R5 | 備考 |
|--------------|----|------------|-----|---------|
| 4 共働き男性の家事時間 | 分 | 125 | 120 | — |
| 5 共働き女性の家事時間 | 分 | 319 | 279 | — |
| 6 50歳時未婚率 | % | 男性 ② 29.61 | — | 5年ごとの公表 |
| | | 女性 ② 16.70 | — | 5年ごとの公表 |

〔県民意識調査の結果 (分野別実感の状況)〕

| 調査項目 | 分野別実感の平均値 | | | |
|----------------------------|-----------|----------|----------|---------|
| | 参考 [H31] | 基準年 [R5] | 実績値 [R6] | 基準年との比較 |
| (家族関係) 家族と良い関係がとれていると感じますか | 3.84 | 3.91 | 3.88 | 横ばい |
| (子育て) 子育てがしやすいと感じますか | 3.08 | 3.06 | 3.03 | 横ばい |

III 教育

学びや人づくりによって、
将来に向かって可能性を伸ばし、
自分の夢を実現できる岩手



令和6年度の取組と今後の取組方向

[取組状況]



ICTを活用した遠隔授業

地域や学校規模によらず質の高い学びの機会の充実を図るため、小規模校において、通年で遠隔授業を実施しています。



「いわての復興教育」

「いわての復興教育」を就学前教育にも広めるため、県内の幼稚園、子ども園、保育所等において、「いわての復興教育」絵本『だいじなもの』の読み聞かせを実施しています。



いわて水産アカデミー(技術習得)

次代を担う新規漁業者の確保・育成のため、いわて水産アカデミーにおいて、本県で漁業就業するための基礎的知識やロープワークなどの技術習得を行っています。



いわての地域国際化人材育成事業 海外派遣研修(北米コース)

地域の国際人材を育成するため、県内高校生8名をアメリカに派遣し研修を行いました。



サイエンス教室&企業見学

ものづくりへの興味関心を高めるため、理工系の女子学生や企業と連携し、小中学生と保護者を対象に「サイエンス教室&企業見学」を実施しています。



スーパーキッズ発掘・育成事業

岩手から世界で活躍するトップアスリートを輩出するため、スーパーキッズに認定された児童・生徒を対象に競技体験トレーニング等を実施しています。

今後の主な取組内容

- 全県的な学校教育のDXを推進するため、これまでのGIGAスクール運営支援センターの機能に新たに情報セキュリティポリシーの策定の支援を追加し、情報活用能力の育成や、統合型校務支援システムの運用等、効果的なICT活用に取り組みます。
- 不登校児童生徒の学びの場や居場所を確保するため、市町村の校内教育支援センターの支援員の配置を促進します。
- 県立高校と関係機関等による「高校魅力化」の取組を推進するため、高校魅力化に取り組む民間団体と協働し、市町村の地域連携コーディネーターの配置促進や活動の支援に取り組みます。
- 公益財団法人いわて産業振興センターが令和7年4月に開所予定の半導体関連人材育成施設を活用し、幅広い世代の人材を育成・確保するため、新たに半導体関連企業や参入を希望する地場企業の従業員の研修のほか、大学や高専と連携した講座や、小中高生等を対象とした見学会の開催等に取り組みます。
- 本県アスリートの競技力向上と県民の健康増進を図るため、多様なニーズの把握に努めながら、専門的なスタッフの派遣などスポーツ医・科学に基づくサポートの実施に取り組むとともに、その拠点となるスポーツ医・科学センターの整備の検討を進めます。

令和6年度の評価結果

[政策評価の結果]

| 教育分野の評価結果 | 評価の説明 |
|---------------|--|
| B | <ul style="list-style-type: none"> ● いわて幸福関連指標 18 指標は、達成度 A、B の指標が 15 指標 (83%)、達成度 D の指標が 3 指標 (17%) でした。 ● この政策分野に係る県民の実感は、「子どもの教育」が横ばいでした。 ● この分野の取組状況は、児童生徒の確かな学力や健やかな体の育成の取組や、共に学び、共に育つ特別支援教育の取組が進みましたが、地域に貢献する人材の育成の取組や、高等教育機関と連携した地域づくり・人づくりについては、遅れが見られています。 ● この政策分野に係る他の主体の取組状況は、各市町村教育委員会において、課題に応じた学力向上策が講じられており、県全体の取組方針と合わせて、確かな学力の育成に向け、小・中学校間の連携や地域と一体となった学力向上支援が行われるなど、県以外の主体においても取組が推進されています。 ◎ 以上の結果及び取り巻く状況を踏まえ、Bと判断しました。 |
| いわて幸福関連指標の達成度 | |

[いわて幸福関連指標の達成状況]

| 指標名 | 単位 | 現状値 (R3) | 計画目標値 (R8) | 年度目標値 (R5) | 実績値 (R5) | 達成度 | 参考) 全国順位(東北順位) | | |
|----------------------------------|----|----------|------------|------------|----------|-----|----------------|----|----|
| | | | | | | | R3 | R5 | 比較 |
| 19 意欲を持って自ら進んで学ぼうとする児童生徒の割合 | % | 小 82.5 | 82.5 | 82.5 | 82.6 | A | — | — | — |
| 20 | | 中 85.4 | 85.4 | 85.4 | 83.1 | B | — | — | — |
| 21 授業で、自分の考えを深めたり広げたりしている児童生徒の割合 | % | 小 83.0 | 83.0 | 83.0 | 83.9 | A | — | — | — |
| 22 | | 中 83.5 | 83.5 | 83.5 | 82.9 | B | — | — | — |

| 指標名 | 単位 | 現状値 (R3) | 計画目標値 (R8) | 年度目標値 (R5) | 実績値 (R5) | 達成度 | 参考)全国順位(東北順位) | | |
|-----|---------------------------------|-----------|------------|------------|----------|-----|---------------|----------|-------|
| | | | | | | | R3 | R5 | 比較 |
| 23 | % | 小 68 | 70 | 70 | 65 | B | — | — | — |
| 24 | | 中 67 | 68 | 68 | 66 | B | — | — | — |
| 25 | | 高 62 | 70 | 66 | 63 | D | — | — | — |
| 26 | % | 小 76.4 | 80.0 | 78.0 | 82.0 | A | — | — | — |
| 27 | | 中 76.2 | 79.0 | 78.5 | 79.1 | A | — | — | — |
| 28 | % | 小 男子 68.9 | 70.0 | 70.0 | 67.6 | B | 10位 (2位) | 11位 (2位) | ↓ (→) |
| 29 | | 小 女子 79.1 | 80.0 | 80.0 | 77.3 | B | 8位 (2位) | 9位 (2位) | ↓ (→) |
| 30 | | 中 男子 74.8 | 75.0 | 75.0 | 72.7 | B | 5位 (2位) | 6位 (2位) | ↓ (→) |
| 31 | | 中 女子 88.8 | 90.0 | 90.0 | 85.8 | B | 7位 (1位) | 6位 (1位) | ↓ (→) |
| 32 | 特別支援学校が適切な指導・支援を行っていると感じる保護者の割合 | 96.0 | 96.0 | 96.0 | 96.0 | A | — | — | — |
| 33 | 高卒者の県内就職率 | 74.1 | 84.5 | 84.5 | 71.5 | B | 33位 (5位) | — | — |
| 34 | % | 小 82.1 | 84.0 | 83.0 | 83.8 | A | — | — | — |
| 35 | | 中 72.8 | 76.0 | 73.8 | 71.8 | D | — | — | — |
| 36 | 県内大学等卒業者の県内就職率 | 47.0 | 50.0 | 48.5 | 40.8 | D | (1位) | (2位) | (↓) |

【参考指標】

| 調査項目 | 単位 | 現状値 (R3) | R5 | 備考 |
|-------------------|----|----------|------|----|
| 学力が全国水準未満の児童生徒の割合 | % | 小 国語 50 | 42 | — |
| | | 小 算数 42 | 43 | — |
| | | 中 国語 37 | 44 | — |
| | | 中 数学 57 | 57 | — |
| 不登校児童生徒数(千人当たり) | 人 | 小 8.4 | 15.8 | — |
| | | 中 39.6 | 55.1 | — |
| | | 高 19.8 | 20.9 | — |

【県民意識調査の結果(分野別実感の状況)】



県民の幸福度の向上に向けた県の取組や成果

IV 居住環境・コミュニティ

不便を感じないで日常生活を送ることができ、
また、人や地域の結び付きの中で、
助け合って暮らすことができる岩手



令和6年度の取組と今後の取組方向

【取組状況】



流域下水道事業開始50周年

令和6年に事業開始から50周年の節目を迎えるとともに、同年4月の鶯宿幹線の完成・供用開始をもって全幹線の整備が完了するなど、快適で豊かな暮らしを支える生活環境づくりに取り組んでいます。



いわてZEHプラス住宅等普及促進事業

2050年カーボンニュートラルの実現に向け、ZEH+水準(断熱等性能等級6以上)を満たす住宅の普及促進に取り組んでいます。



三陸鉄道開業40周年

開業40周年を迎えた三陸鉄道が行う各種企画を支援するなど、マイレール意識の醸成と利用促進に取り組んでいます。



地域おこし協力隊出口戦略セミナー

地域おこし協力隊の県内定着の促進に向けて、任期終了後の就業や起業のためのセミナーを実施しました。



いわておかえりプロモーション

県外で働く若者等にUターン意識を高めてもらうため、お盆と年末年始の帰省時期に「いわておかえりプロモーション」を実施しました。



被災地スポーツ交流事業

「ラグビーワールドカップ2019」日本大会の会場となった釜石鵜住居復興スタジアムにおいて、ラグビー交流試合を開催したほか、東日本大震災津波の記憶と教訓を次世代に伝えるための震災体験学習を実施しました。

今後の主な取組内容

- 本県への移住・定住の促進を図るため、県外からの移住希望者に加え、新たに農林水産業等の担い手を目指す者に対し、家電等を整備した県営住宅の低廉な家賃での提供に取り組みます。
- 地域の実情に合った効率的な污水处理施設の整備を計画的に推進するとともに、下水道事業等の効率的な経営への助言や、広域化・共同化計画に基づく市町村の取組を支援し、污水处理施設の持続的な運営を推進します。
- 市町村による地域公共交通網の構築を支援するため、引き続き地域公共交通計画の策定支援に取り組みるとともに、同計画の実施計画である利便増進実施計画の策定に向けた支援を強化します。
- 持続可能なコミュニティづくりを促進するため、先駆的な活動に取り組む「元気なコミュニティ特選団体」の認定や活動事例の情報発信に取り組むとともに、住民自らが地域課題解決に取り組む地域運営組織や小さな拠点の形成に向け、市町村のニーズを踏まえたコミュニティ形成のための体制づくりへの支援や、県内外の事例紹介等による普及啓発に取り組みます。
- 海外とのネットワーク強化のため、南米に県内の次世代人材の派遣を行うことにより、本県への留学経験者との新たなネットワークの構築と交流の促進を図るほか、現地の若者世代へ本県の魅力を伝えるを通じ、関係人口の拡大に取り組みます。

令和6年度の評価結果

[政策評価の結果]

| 居住環境・コミュニティ分野の評価結果 | 評価の説明 |
|--|---|
| <h1>B</h1> <p>いわて幸福関連指標の達成度</p> <p>7指標 A 4指標 57% D 3指標 43%</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● いわて幸福関連指標7指標は、達成度Aの指標が4指標(57%)、達成度Dの指標が3指標(43%)でした。 ● この政策分野に係る県民の実感は、「住まいの快適さ」、「地域社会とのつながり」がともに横ばいでした。 ● この分野の取組状況は、岩手で暮らす魅力を高め、移住・定住を促進する取組や、文化芸術・スポーツを生かした地域づくりなどが進みましたが、地域の暮らしを支える公共交通を守る取組や、つながりや活力を感じられる地域コミュニティを守り育てる取組については、やや遅れが見られています。 ● この政策分野に係る他の主体の取組状況は、市町村において、地域おこし協力隊等による、地域内の自発的な活性化や担い手の育成支援に向けた取組が行われるなど、県以外の主体においても取組が推進されています。 <p>◎ 以上の結果及び取り巻く状況を踏まえ、Bと判断しました。</p> |

[いわて幸福関連指標の達成状況]

| 指標名 | 単位 | 現状値 (R3) | 計画目標値 (R8) | 年度目標値 (R5) | 実績値 (R5) | 達成度 | 参考) 全国順位(東北順位) | | |
|-----------------|----|----------|------------|------------|----------|-----|----------------|----------|-------|
| | | | | | | | R3 | R5 | 比較 |
| 37 県外からの移住・定住者数 | 人 | 1,584 | 2,500 | 1,830 | 1,868 | A | — | — | — |
| 38 污水处理人口普及率 | % | 84.4 | 91.1 | 87.9 | 85.4 | D | 35位 (5位) | 37位 (5位) | ↓ (→) |

| 指標名 | 単位 | 現状値 (R3) | 計画目標値 (R8) | 年度目標値 (R5) | 実績値 (R5) | 達成度 | 参考) 全国順位(東北順位) | | |
|---|----|----------|------------|------------|----------|-----|----------------|----------|-------|
| | | | | | | | R3 | R5 | 比較 |
| 39 三セク鉄道・バスの一人当たり年間利用回数 | 回 | 10.2 | 16.5 | 14.3 | 11.8 | D | — | — | — |
| 40 地縁的な活動への参加割合 | % | 33.3 | 44.5 | 36.0 | 34.7 | D | — | — | — |
| 41 在留外国人数(10万人当たり) | 人 | 597.0 | 849.2 | 693.0 | 867.7 | A | 45位 (4位) | 45位 (4位) | → (→) |
| 42 文化・スポーツ施設の入場者数(文化施設入場者数) ^{*1} | 千人 | ② 33 | ⑦ 185 | ④ 126 | ④ 128 | A | — | — | — |
| 43 文化・スポーツ施設の入場者数(スポーツ施設入場者数) ^{*2} | 万人 | 486 | 757 | 594 | 651 | A | — | — | — |

※1 岩手県内公立文化施設協議会加盟施設で行う自主催事入場者数
 ※2 県及び県内市町村の公立スポーツ・レクリエーション施設入場者数

[参考指標]

| 調査項目 | 単位 | 現状値(R3) | R5 | 備考 |
|--------------------|----|---------|-------|---------|
| 15 三セク鉄道・バスの年間利用者数 | 万人 | 1,214 | 1,367 | — |
| 16 持ち家比率 | % | ⑩ 69.9 | — | 5年ごとの公表 |

[県民意識調査の結果(分野別実感の状況)]

| 調査項目 | 分野別実感の平均値 | | | |
|----------------------------------|-----------|---------|---------|---------|
| | 参考[H31] | 基準年[R5] | 実績値[R6] | 基準年との比較 |
| (住まいの快適さ) 住まいに快適さを感じますか | 3.34 | 3.29 | 3.31 | 横ばい |
| (地域社会とのつながり) 地域社会とのつながりを感じますか | 3.35 | 3.07 | 3.10 | 横ばい |

V 安全

災害をはじめとした様々なリスクへの備えがあり、
事故や犯罪が少なく、
安全で、安心を実感することができる岩手



- 個別避難計画の作成を促進するため、計画作成のノウハウが確立されていない、避難までの時間的猶予がないなどの特性を有する津波からの避難や専門的な支援を要する医療的ケア児等の避難について、計画作成や避難訓練の実施等によるモデル事例の作成に取り組みます。
- 令和6年4月に施行した犯罪被害者等支援条例の趣旨を踏まえ、犯罪被害者等に対する支援のため、国や県、市町村、関係機関、支援団体が連携して支援するためのコーディネーターを設置し体制を強化するとともに、人材育成及び県民への啓発に取り組みます。
- 高齢者を始めとした自動車運転者及び自転車利用者の交通事故の抑止を図るため、動画KYT(危険予測トレーニング)装置を活用した体験型の安全教室の開催など、あらゆる年代の運転者等を対象とした効果的な安全教育に取り組みます。
- 新型インフルエンザ、新興感染症、一類感染症等による健康危機管理に迅速かつ適切に対応するため、新たな「新型インフルエンザ等対策行動計画」に基づき、関係機関の連携体制の強化、研修・訓練の実施等により、新興感染症発生時に備えた体制整備を推進します。

令和6年度の取組と今後の取組方向

[取組状況]



避難者把握デジタル実証実験

LINEやマイナンバーカードを活用し、避難所外避難者の把握や避難所受付のデジタル化等に関する実証実験を行いました。



リアカーを活用した 自主防災組織による避難訓練

低体温症対策や自主防災組織の活動に必要な資機材整備など、市町村が行う避難速度の向上等に資するソフト対策を支援しました。



避難所運営ゲーム(HUG)の 体験実習

花巻市と共同で岩手県総合防災訓練を実施し、避難所運営を疑似体験できる避難所運営ゲーム(HUG)の体験実習を行いました。



地域防災サポーターの派遣

防災に関する資格や経験を持つ地域防災サポーターを市町村等に派遣し、防災に関する普及啓発に取り組んでいます。



鍵かけ推進モデル事業

「鍵かけモデル地区」や「自転車安全利用・自転車鍵かけ推進モデル校」等を指定し、地域ぐるみで鍵かけ意識の向上に取り組んでいます。



デジタルサイネージを使用した 広報啓発活動

デジタルサイネージを使用して、視覚に訴える交通安全広報啓発活動を推進しています。

今後の主な取組内容

- 住民主体の防災活動による地域防災力向上を推進するため、防災士養成研修や自主防災組織リーダー研修会等により防災人材の育成を推進するとともに、防災サポーターの派遣や防災士との連携により、自主防災組織が行う地区防災計画の策定や各種訓練などの活動支援に取り組みます。

令和6年度の評価結果

[政策評価の結果]

| 安全分野の評価結果 | 評価の説明 |
|---------------|--|
| D | |
| いわて幸福関連指標の達成度 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ● いわて幸福関連指標5指標は、達成度Aの指標が2指標(40%)、達成度Dの指標が3指標(60%)でした。 ● この政策分野に係る県民の実感は、「地域の安全」が横ばいでした。 ● この分野の取組状況は、食の安全・安心を確保し、地域に根ざした食育の取組や、感染症による脅威から一人ひとりの暮らしを守る取組が進みましたが、自助、共助、公助による防災体制の取組や、事故や犯罪が少なく、安全・安心に暮らせるまちづくりの取組については、遅れが見られています。 ● この政策分野に係る他の主体の取組状況は、市町村において防災士資格等の取得を促し、自主防災組織の中核を担う人材の育成に取り組むなど、県以外の主体においても取組が推進されています。 |
| | ◎ 以上の結果及び取り巻く状況を踏まえ、 D と判断しました。 |

[いわて幸福関連指標の達成状況]

| 指標名 | 単位 | 現状値(R3) | 計画目標値(R8) | 年度目標値(R5) | 実績値(R5) | 達成度 | 参考)全国順位(東北順位) | | |
|-----------------------------|----|---------|-----------|-----------|---------|-----|---------------|---------|----|
| | | | | | | | R3 | R5 | 比較 |
| 44 自主防災組織の組織率 | % | 88.5 | 91.8 | 89.8 | 89.1 | D | 27位(2位) | 28位(2位) | ↔ |
| 45 刑法犯認知件数 | 件 | 2,507 | 2,300 | 2,560 | 2,856 | D | 2位(2位) | 6位(2位) | ↔ |
| 46 交通事故発生件数(千人当たり) | 件 | 1.29 | 1.10 | 1.23 | 1.27 | D | 4位(1位) | 5位(2位) | ↔ |
| 47 食中毒の発生人数(10万人当たり) | 人 | 1.3 | 7.3 | 7.3 | 3.3 | A | 4位(2位) | 6位(3位) | ↔ |
| 48 新興感染症に対応可能な公立・公的医療機関等の数* | 機関 | — | 60 | 27 | 55 | A | — | — | — |

* 入院受入医療機関と外来診療医療機関の計

[県民意識調査の結果(分野別実感の状況)]

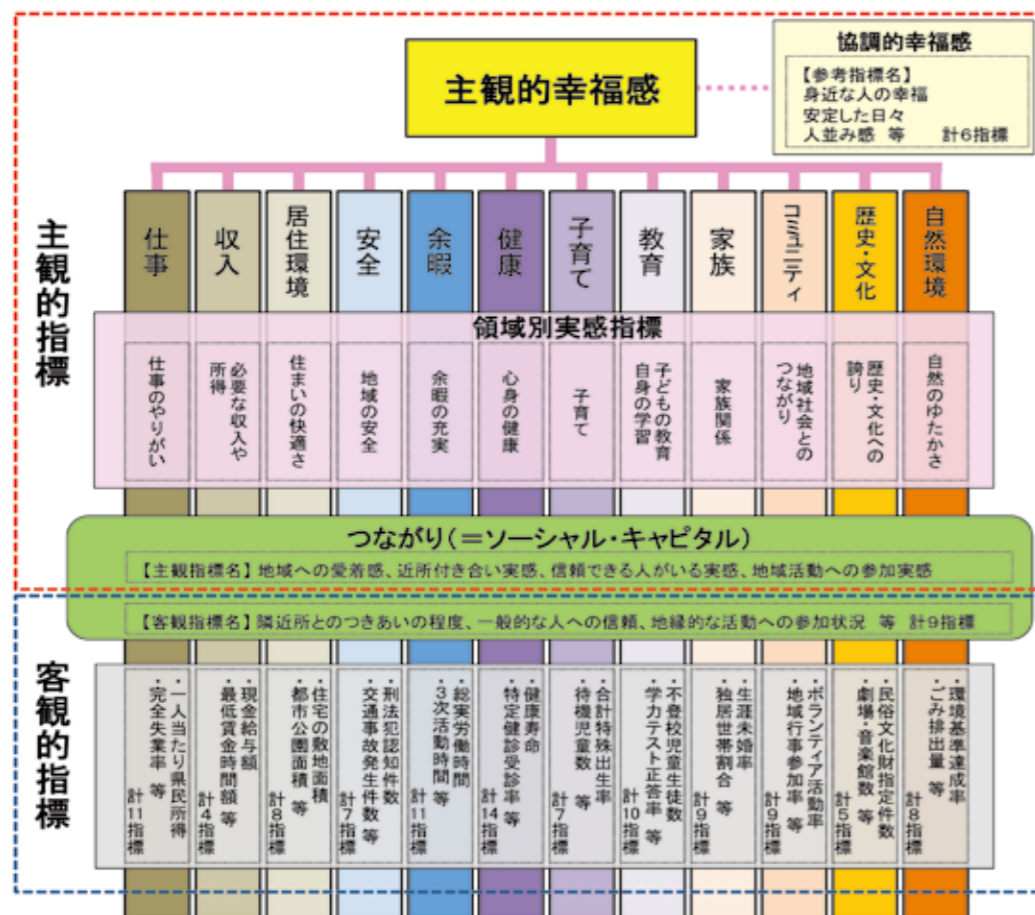
| 調査項目 (地域の安全) お住いの地域は 安全だと感じますか | 分野別実感の平均値 | | | |
|---|-----------|---------|---------|---------|
| | 参考[H31] | 基準年[R5] | 実績値[R6] | 基準年との比較 |
| | 3.82 | 3.69 | 3.66 | 横ばい |

コラム

岩手の幸福に関する指標の体系図

いわて県民計画においては、県民や岩手県に関わる方の幸福を守り育てるため、10の政策分野を設定するとともに、それぞれに「いわて幸福関連指標」を設定して取組を展開することとしています。

この10の政策分野や「いわて幸福関連指標」の設定に当たっては、県民の「幸福」について把握する方法を研究するために設置した「岩手の幸福に関する指標研究会」において示された「岩手の幸福に関する指標の体系」をもとに検討が進められました。



【参照】「岩手の幸福に関する指標」研究会

県民の幸福度の向上に向けた県の取組や成果

VI 仕事・収入

農林水産業やものづくり産業などの活力ある産業のもとで、安定した雇用が確保され、また、やりがいと生活を支える所得が得られる仕事につくことができる岩手



令和6年度の取組と今後の取組方向

[取組状況]



就活応援メディア
「みんなの想職活動」

岩手で働き、暮らすことの魅力をZ世代の若者等に向けて発信し、本県へのU・Iターンを強力に促進するため、県内企業やそこで働く社員などを紹介する「就活応援メディア『みんなの想職活動』」を運営しています。



移住・就農希望者と農業法人との
マッチング(ふるさと回帰フェア)

多くの就農希望者に岩手での就農を検討いただくため、東京都で開催された「第20回ふるさと回帰フェア2024」に出展し、首都圏在住で移住・雇用就農を希望する方に向けて就農相談を行いました。



未来のワタシゴト探究会議

将来の進路を考える機会として、高校生を対象に、県内の大学などでの「学び」と県内企業の「仕事」を紹介するイベントを開催しました。



いわて木づかいフェスタの開催

木材利用の機運醸成を図るため、木工工作や木製品展示等により、県産木材についての理解と関心を深めてもらうイベントを開催しました。



海外メディア向けプレスツアー

本県の伝統工芸について、海外への認知度向上やマーケット拡大につなげるため、海外メディア向けプレスツアーを開催し、商品や職人技の魅力を発信しました。



いわてフェア
(カナダ:バンクーバー)

「いわて牛」をはじめとした県産農林水産物の認知度向上・販路拡大を図るため、量販店でフェアを開催するなど、北米でのトップセールスを実施しました。

今後の主な取組内容

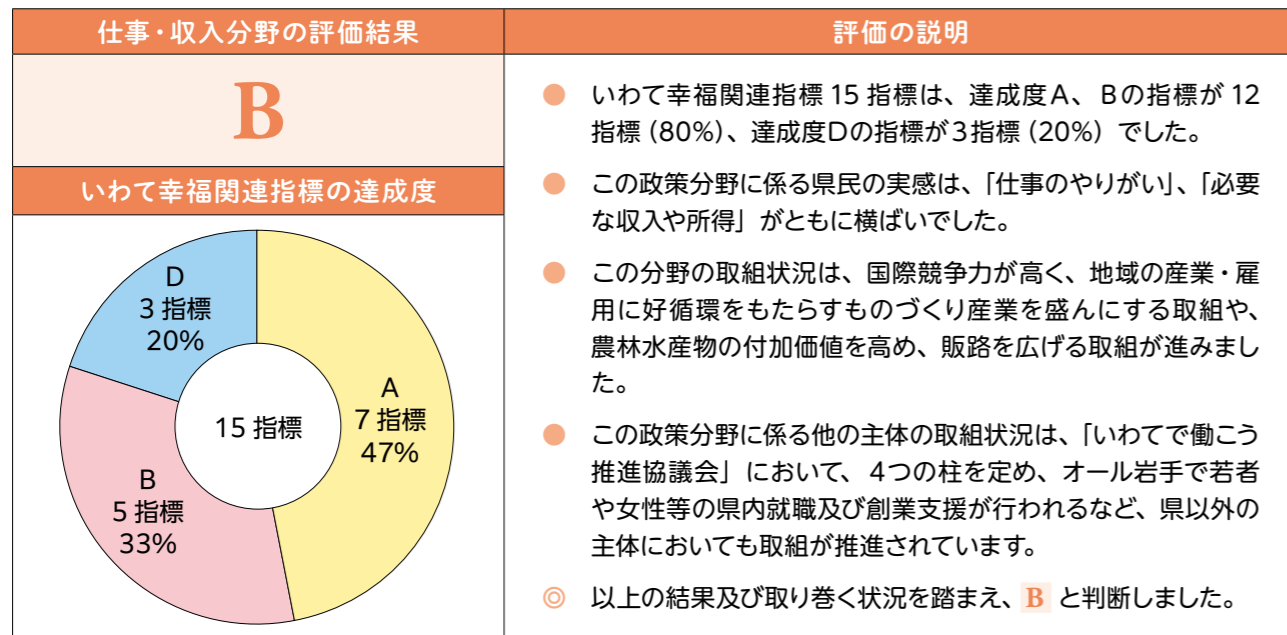
- 県内企業における働き方改革の促進と生産性向上を両輪とした取組を推進していくため、労働環境の整備と処遇改善に向けた取組を支援するとともに、新たに企業における従業員エンゲージメントを高める取組を支援し、若者や女性などに魅力ある職場環境づくりを促進します。
- 県内就業の促進やU・Iターンによる県内企業の人材確保の推進及び高校生の大学等進学後の

県内就職並びにUターンの促進のため、県内企業と求職者やU・Iターン希望者とのマッチング支援等に加えて、新たに外国人インターンシップの受入費用を補助する市町村の支援に取り組みます。

- 海外展開を目指す県内スタートアップ企業を支援するため、海外ベンチャーキャピタルとの連携による県内スタートアップ企業の海外展開支援等の取組を推進します。
- 国内外から注目が集まる「みちのく潮風トレイル」について地域が一体となった受入態勢整備を行うため、地域の観光事業者や行政、DMO等多様な関係者と連携し、三陸地域一体となったみちのく潮風トレイルの受入態勢強化を推進します。
- 県外からの新規就業者確保を図るため、メタバースを活用した就業相談会の対象を農業に加え、林業や漁業に拡大するとともに、リモート就農体験ツアーの開催に取り組みます。
- 県産農林水産物の輸出力強化、海外への販路拡大を図るため、有望市場において、現地バイヤーや在外公館等と連携し、トップセールス及び岩手県フェア等の開催に取り組みます。

令和6年度の評価結果

〔政策評価の結果〕



〔いわて幸福関連指標の達成状況〕

| 指標名 | 単位 | 現状値 (R3) | 計画目標値 (R8) | 年度目標値 (R5) | 実績値 (R5) | 達成度 | 参考) 全国順位(東北順位) | | |
|-------------------------------|----|----------|------------|------------|----------|-----|----------------|----------|-------|
| | | | | | | | R3 | R5 | 比較 |
| 49 一人当たり県民所得の水準 ^{*1} | % | ① 87.4 | ⑥ 90.0 | ③ 90.0 | ③ 85.1 | B | — | — | — |
| 50 正社員の有効求人倍率 | 倍 | 0.88 | 1.00 | 1.00 | 0.89 | B | 34位 (6位) | 38位 (6位) | ↔ (→) |
| 51 総実労働時間(年間)【再掲】 | 時間 | 1,761.6 | 1,633.0 | 1,710.1 | 1,742.4 | D | 44位 (3位) | 45位 (4位) | ↘ (↘) |
| 52 完全失業率 | % | 2.4 | 2.0 | 2.0 | 2.3 | B | 15位 (2位) | 28位 (2位) | ↘ (→) |
| 53 高卒者の県内就職率【再掲】 | % | 74.1 | 84.5 | 84.5 | 71.5 | B | 33位 (5位) | — | — |
| 54 女性の全国との賃金格差 ^{*1} | % | 84.4 | 89.4 | 85.8 | 85.9 | A | 44位 (4位) | 43位 (4位) | ↗ (→) |

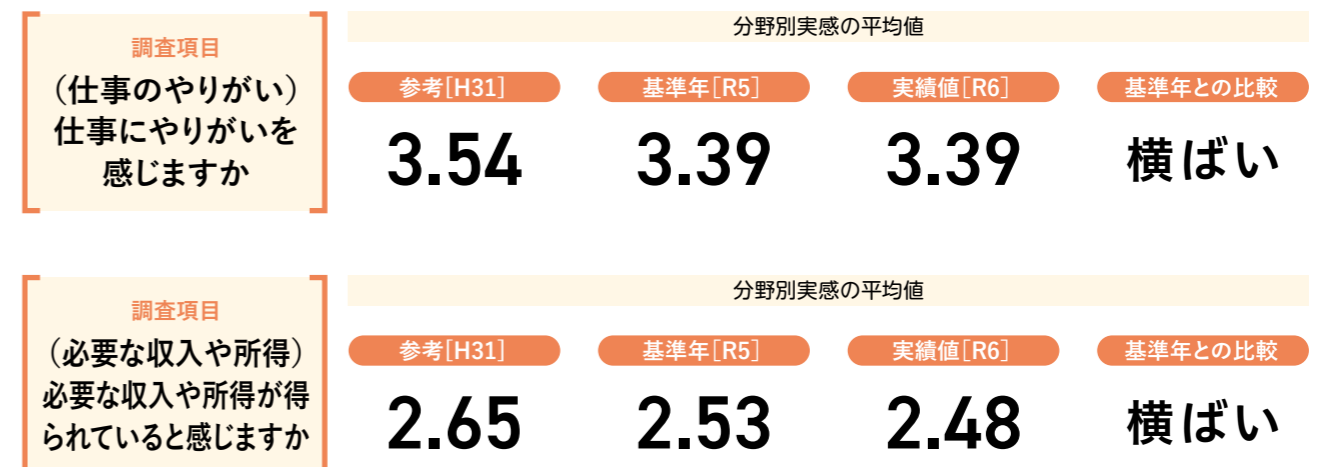
| 指標名 | 単位 | 現状値 (R3) | 計画目標値 (R8) | 年度目標値 (R5) | 実績値 (R5) | 達成度 | 参考) 全国順位(東北順位) | | |
|-----------------------------|-----|-----------|------------|------------|----------|-----|----------------|-----------|-------|
| | | | | | | | R3 | R5 | 比較 |
| 55 従業者一人当たりの付加価値額 | 千円 | ② 5,717 | ⑦ 6,006 | ④ 5,831 | ④ 5,976 | A | ②37位 (4位) | ④39位 (4位) | ↔ (→) |
| 56 開業率 ^{*2} | % | ② 3.2 | ⑦ 3.6 | ④ 3.3 | ④ 2.4 | D | ②44位 (4位) | ④46位 (5位) | ↘ (↘) |
| 57 従業者一人当たりの製造品出荷額 | 百万円 | ② 29.6 | ⑥ 31.0 | ③ 29.9 | ③ 31.7 | A | ②37位 (4位) | ③31位 (3位) | ↗ (↗) |
| 58 観光消費額 | 億円 | ② 1,142.3 | 2,042.9 | 1,657.7 | 1,945.6 | A | ②— (5位) | — | — |
| 59 農業経営体一経営体当たりの農業総産出額 | 千円 | ② 5,312 | ⑦ 5,810 | ④ 5,390 | ④ 5,562 | A | — | — | — |
| 60 林業従業者一人当たりの木材生産産出額 | 千円 | ② 4,377 | ⑦ 4,910 | ④ 4,700 | ④ 7,098 | A | — | — | — |
| 61 漁業経営体一経営体当たりの海面漁業・養殖業産出額 | 千円 | ② 4,179 | ⑦ 4,200 | ④ 3,930 | ④ 5,705 | A | — | — | — |
| 62 農林水産物の輸出額 | 億円 | 43.0 | 69.0 | 52.0 | 47.0 | D | — | — | — |
| 63 グリーン・ツーリズム交流人口 | 千人回 | 1,090 | 1,220 | 1,160 | 1,148 | B | — | — | — |

※1 全国を100とした水準
 ※2 雇用保険が新規に成立した事業所の比率

【参考指標】

| 調査項目 | 単位 | 現状値(R3) | R5 | 備考 |
|---------------------|-----|----------|----------|---------|
| 17 非正規職員・従業員率 | % | ⑳ 35.7 | ④ 35.5 | 5年ごとの公表 |
| 18 雇用者一人当たり雇用者報酬 | 千円 | ① 4,043 | ③ 4,101 | — |
| 19 現金給与総額(5人以上、毎月) | 円 | 282,811 | 287,572 | — |
| 20 農業産出額 | 億円 | 2,651 | ④ 2,660 | — |
| 21 林業産出額 | 千万円 | ② 1,782 | ④ 2,567 | — |
| 22 漁業産出額 | 千万円 | ② 3,057 | ④ 3,897 | — |
| 23 製造品出荷額 | 億円 | ② 24,943 | ③ 31,124 | — |
| 24 ものづくり関連分野の製造品出荷額 | 億円 | ② 16,830 | ④ 22,294 | — |
| 25 食料品製造出荷額 | 億円 | ② 3,769 | ④ 4,195 | — |
| 26 水産加工品製造出荷額 | 億円 | ② 674 | ④ 655 | — |
| 27 事業所新設率 | % | ㉘~① 11.7 | — | — |

〔県民意識調査の結果(分野別実感の状況)〕



VII 歴史・文化

豊かな歴史や文化を受け継ぎ、
愛着や誇りを育んでいる岩手



令和6年度の取組と今後の取組方向

[取組状況]



世界遺産出前授業

県内の子どもたちに、本県の3つの世界遺産（「平泉」、「橋野鉄鉱山」、「御所野遺跡」）の価値を伝え、郷土への愛情と誇りが高まるよう、世界遺産出前授業を開催しています。



教員現地研修会

世界遺産を通じて、郷土の歴史や文化について子どもたちの理解が深まるよう、教員等を対象とした研修会を開催しています。



県立平泉世界遺産
ガイダンスセンター

「平泉」の価値を広く世界中に伝え、後世へ継承するための拠点となる県立平泉世界遺産ガイダンスセンターは、開館4年目を迎えました。



ピースでつなぐ
いわて3つの世界遺産展

3つの世界遺産の魅力を発信するため、それぞれの世界遺産における当時の生活の様子や建造物を約20万ピースのブロックで表現した特別展示を開催しました。



岩手県民俗芸能フェスティバル

本県の伝統文化や民俗芸能の魅力を発信するため、オンライン配信を取り入れ「岩手県民俗芸能フェスティバル」を開催しました。



県指定文化財の新規指定

文化財の保存・活用のため、「猪川観音長谷寺絵馬群」など4件を、新たに県指定文化財として指定しました。

今後の主な取組内容

- 文化観光の取組を推進するため、平泉世界遺産ガイダンスセンターを拠点とした周遊プログラムを造成するとともに、ガイダンスセンター等において歴史・文化体験等のイベントを実施するほか、「ひらいずみ遺産^{*}」に係るホームページの内容の充実を図るなど、「ひらいずみ遺産」の各構成

資産の魅力向上・来訪促進・周遊促進に取り組みます。

- 世界遺産が有する価値を広めるため、橋野鉄鉱山の世界遺産登録10周年を契機として、新たに多言語版の世界遺産パネルを制作するなど、国内外に向けた情報発信の強化に取り組みます。
- 民俗芸能の保存・継承活動を促進するため、令和7年に本県で開催する「第67回北海道・東北ブロック民俗芸能大会」を通じて、民俗芸能の鑑賞・発表機会の創出及び情報発信に取り組みます。

※ ひらいずみ遺産：県と関係市町において、世界遺産の構成資産とその関連資産の一体的な保存管理や研究調査、活用を進めるために位置づけた該当資産の総称。世界遺産の構成資産5資産（中尊寺、毛越寺、無量光院跡、観自在王院跡、金鶏山）と関連資産5資産（柳之御所遺跡、骨寺村荘園遺跡、白鳥館遺跡、長者ヶ原廃寺跡、達谷窟）の10資産を指す。

令和6年度の評価結果

[政策評価の結果]

| 歴史・文化分野の評価結果 | 評価の説明 |
|-----------------------------------|--|
| A | <ul style="list-style-type: none"> ● いわて幸福関連指標3指標は、達成度Aの指標が3指標（100%）でした。 ● この政策分野に係る県民の実感は、「歴史・文化への誇り」が横ばいでした。 ● この分野の取組状況は、世界遺産の保存と活用を進める取組や、豊かな歴史や民俗芸能などの伝統文化が受け継がれる環境をつくり、交流を広げる取組が進みました。 ● この政策分野に係る他の主体の取組状況は、市町村等において、世界遺産等の適切な保存管理・普及啓発や民俗芸能の担い手育成が行われるなど、県以外の主体においても取組が推進されています。 ◎ 以上の結果及び取り巻く状況を踏まえ、Aと判断しました。 |
| いわて幸福関連指標の達成度 | |
| <p>3指標 A 3指標 100%</p> | |

[いわて幸福関連指標の達成状況]

| 指標名 | 単位 | 現状値 (R3) | 計画目標値 (R8) | 年度目標値 (R5) | 実績値 (R5) | 達成度 | 参考) 全国順位(東北順位) | | |
|--------------------|----|----------|------------|------------|----------|-----|----------------|----------|-------|
| | | | | | | | R3 | R5 | 比較 |
| 64 世界遺産等の来訪者数 | 千人 | 417 | 991 | 712 | 778 | A | — | — | — |
| 65 国、県指定文化財件数 | 件 | 574 | 589 | 580 | 584 | A | 31位 (3位) | 29位 (3位) | ↔ (→) |
| 66 民俗芸能ネットワーク加盟団体数 | 団体 | 393 | 393 | 393 | 422 | A | — | — | — |

[県民意識調査の結果(分野別実感の状況)]

| 調査項目 | 分野別実感の平均値 | | | |
|-------------------------------|-----------|----------|----------|---------|
| | 参考 [H31] | 基準年 [R5] | 実績値 [R6] | 基準年との比較 |
| (歴史・文化への誇り) 地域の歴史や文化に誇りを感じますか | 3.28 | 3.23 | 3.28 | 横ばい |

VIII 自然環境

一人ひとりが恵まれた自然環境を守り、
自然の豊かさとともに暮らすことができる岩手



令和6年度の取組と今後の取組方向

[取組状況]



ツキノワグマ市街地出没時
対応実地訓練

クマの市街地出没に備え、関係機関による屋外での実地訓練を実施しています。



水生生物調査

川の生き物を調べて水のきれいさを判定する水生生物調査の実施に際し、教材の配布や講師を派遣しています。



第14回いわての森林の感謝祭
(矢巾町)

令和5年度に陸前高田市で開催した第73回全国植樹祭のレガシーを継承するイベントとして、地元小学生による緑の誓いや植樹等を行いました。



みちのく潮風トレイル×
三陸ジオパークシンポジウム2024

三陸ジオパーク推進協議会等と連携し、三陸の大地が育んだ「食」、「郷土芸能」などの文化資源について、ジオパーク・トレイル双方の視点から魅力を伝えるシンポジウムを開催しました。



環境月間ごみゼロキャラバン

3R（リデュース・リユース・リサイクル）への協力を広く呼びかけるため、6月の環境月間に、エコ協力店いわて認定店において、ごみゼロキャラバンを実施しました。



いわてカーボンフリー・
アクション(ICFA)の取組

県内大学生による学生プロジェクトチーム「いわてカーボンフリー・アクション (ICFA)」において、脱炭素につながる広報活動を行っています。

今後の主な取組内容

- 県内の野生動植物を保護するため、ハヤチネウスユキソウ等の生息状況等の調査や、イヌワシの巣への捕食者の侵入を防止するための措置等による繁殖環境の改善に取り組みます。
- 令和6年4月にツキノワグマが新たに指定管理鳥獣に指定されたことを踏まえ、クマによる人身被害を防止するため、生息数の調査や個体数管理を目的とした捕獲等に取り組みます。
- 三陸ジオパークが有する地域資源の発信力を強化するため、これまでの三陸ジオパークを活用した学習会の実施等による普及促進に加え、新たにみちのく潮風トレイル等と連携した国内外への情報発信や世界各国のジオパークとの交流によるネットワーク活動に取り組みます。
- 「温暖化防止いわて県民会議」を中核として県民、事業者総参加による県民運動を推進するとともに、地域経済と環境の好循環に向けて、市町村や発電事業者等との連携による、地域に裨益*する再生可能エネルギーの導入を促進します。
- 市町村等に対する地域の実態に応じたごみ減量化施策への助言・支援に取り組むとともに、事業者による食品廃棄物や廃プラスチック類等の廃棄物の発生抑制、リサイクル等に資する製品・技術開発等の支援に取り組みます。

* 地域裨益：「地域の役に立つこと」であり、エネルギーの地域内循環、売電収入等の地域還元などを指す。

令和6年度の評価結果

[政策評価の結果]

| 自然環境分野の評価結果 | 評価の説明 |
|--------------------------------------|--|
| <p>B</p> <p>いわて幸福関連指標の達成度</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● いわて幸福関連指標7指標は、達成度A、Bの指標が6指標(86%)、達成度Dの指標が1指標(14%)でした。 ● この政策分野に係る県民の実感は、「自然のゆたかさ」が横ばいでした。 ● この分野の取組状況は、多様で優れた環境を守り、次世代に引き継ぐための取組や循環型地域社会の形成を進める取組が進みましたが、地球温暖化防止に向けた脱炭素社会の形成を進める取組にやや遅れが見られています。 ● この政策分野に係る他の主体の取組状況は、令和6年12月現在、23市町村が「2050年二酸化炭素排出実質ゼロ」を表明し、再生可能エネルギーの地産地消に向けた取組が行われるなど、県以外の主体においても取組が推進されています。 ◎ 以上の結果及び取り巻く状況を踏まえ、Bと判断しました。 |

[いわて幸福関連指標の達成状況]

| 指標名 | 単位 | 現状値 (R3) | 計画目標値 (R8) | 年度目標値 (R5) | 実績値 (R5) | 達成度 | 参考) 全国順位 (東北順位) | | |
|---|----|----------|------------|------------|----------|-----|-----------------|-----------|-------|
| | | | | | | | R3 | R5 | 比較 |
| 67 岩手の代表的希少野生動物の個体・つがい数 (イヌワシつがい数) | ペア | 26 | 26 | 26 | 24 | B | — | — | — |
| 68 岩手の代表的希少野生動物の個体・つがい数 (ハヤチネウスユキソウ個体数) | 花茎 | ④ 115 | 115 | 115 | 96 | B | — | — | — |
| 69 自然公園の利用者数* | 千人 | 339 | 493 | 401 | 446 | A | — | — | — |
| 70 公共用水域のBOD(生物化学的酸素要求量)等環境基準達成率 | % | 95.7 | 95.7 | 95.7 | 98.3 | A | — | — | — |
| 71 再生可能エネルギーによる電力自給率 | % | 38.6 | 56.2 | 50.9 | 45.7 | D | — | — | — |
| 72 一般廃棄物の最終処分量 | 千t | ② 37.8 | ⑦ 35.8 | ④ 37.0 | ④ 36.7 | A | ②16位 (3位) | ④19位 (3位) | ↓ (→) |
| 73 一人1日当たり家庭系ごみ(資源になるものを除く)排出量 | g | ② 520 | ⑦ 493 | ④ 513 | ④ 514 | B | ②17位 (1位) | ④23位 (1位) | ↓ (→) |

* 自然公園ビジターセンター等利用者数

【参考指標】

| 調査項目 | 単位 | 現状値 (R3) | R5 | 備考 |
|-----------|----|----------|----|---------|
| 28 森林面積割合 | % | ① 74.6 | — | 5年ごとの公表 |

[県民意識調査の結果(分野別実感の状況)]

| 調査項目 (自然のゆたかさ) 自然に恵まれている と感じますか | 分野別実感の平均値 | | | |
|--|-----------|---------|---------|---------|
| | 参考[H31] | 基準年[R5] | 実績値[R6] | 基準年との比較 |
| | 4.21 | 4.21 | 4.21 | 横ばい |

県民の幸福度の向上に向けた県の取組や成果

IX 社会基盤

防災対策や産業振興など幸福の追求を支える社会基盤が整っている岩手



令和6年度の取組と今後の取組方向

[取組状況]



砂防激甚災害対策特別緊急事業の完了

令和元年台風第19号により被災し、今後の出水で下流に著しい被害を与えるおそれがある沿岸地域17箇所の砂防堰堤の整備が完了しました。



災害に強い道路ネットワークの構築

平成28年台風第10号による被災を踏まえ整備を進めてきた国道455号乙茂工区が供用開始するなど、災害に強い道路ネットワークの構築に取り組んでいます。



クルーズ船の寄港拡大

観光振興や地域振興に資するクルーズ船の寄港拡大に取り組み、令和6年度の外国船クルーズ船の本県への寄港回数は8回と、過去最高になりました。



いわて花巻空港開港60周年

いわて花巻空港が開港60周年を迎える中、空港への関心を高めるため、スカイフェスタをはじめ、公式Instagramを活用したPR活動のほか、パネル展や記念チャーター便の運航など、様々な記念イベントを開催しました。



道路インフラメンテナンス工事現場見学会

高校生を対象とした工事現場見学会の開催などを通じ、将来のインフラメンテナンスの担い手の確保・育成に取り組んでいます。



いわて建設業みらいフォーラム2024

建設業のイメージアップを図り、次世代を担う若者をはじめとした県民の建設業への理解や関心を高めるため、フォーラムを開催しました。

今後の主な取組内容

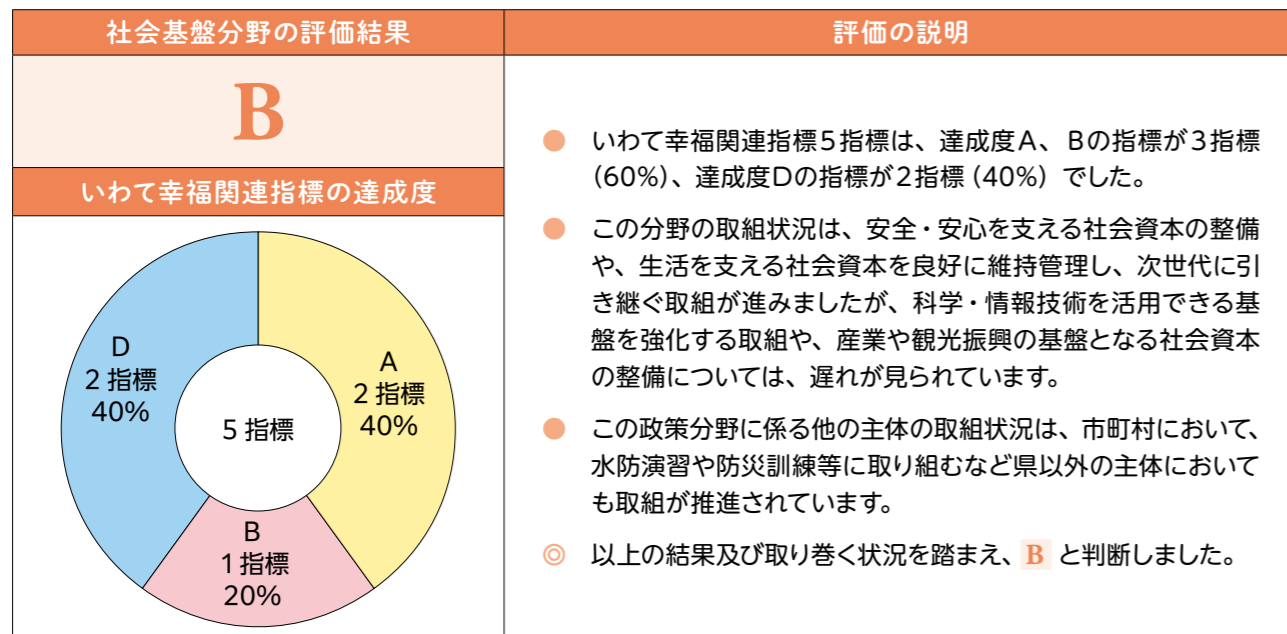
- 情報システムの標準化や行政手続きのオンライン化など、さまざまな取組でデジタル化を推進することにより、デジタル技術やデジタル技術を使ったサービスに触れる機会の増加を図るなど、リテラシーの向上やインターネットの利用促進に取り組みます。
- 県内企業の加速器関連分野における受注機会の増大に向けて、加速器コーディネーター等によるオープンラボに整備した試作品性能評価機器を活用した技術指導や、関東、関西方面における

研究所とのマッチング等の強化に取り組むなど、ILC 実現に向けた取組を推進します。

- 流域全体のあらゆる関係者が協働して行う「流域治水」の考え方を踏まえ、河川改修や砂防施設の整備などのハード対策と、洪水浸水想定区域や土砂災害警戒区域等の指定等の災害関連情報の充実強化などのソフト施策を効果的に組み合わせた防災・減災対策を推進します。
- クルーズ船の寄港拡大を図るため、観光資源など「岩手の魅力」を知っていただくモニターツアーを新たに実施するなど、国内外の船社等を対象としたプロモーションに取り組めます。
- 「いわて建設業未来フォーラム」などを通じた建設業の魅力の発信や、けんせつ小町部会を中心とした女性従事者向けの講習会の充実などを図るとともに、原則すべての工事を発注指定型の週休2日工事の発注とするなど、若者や女性などが働きやすい労働環境の整備を推進します。

令和6年度の評価結果

〔政策評価の結果〕



〔いわて幸福関連指標の達成状況〕

| 指標名 | 単位 | 現状値 (R3) | 計画目標値 (R8) | 年度目標値 (R5) | 実績値 (R5) | 達成度 | 参考) 全国順位(東北順位) | | |
|----------------------|----|----------|------------|------------|----------|-----|----------------|----------|-------|
| | | | | | | | R3 | R5 | 比較 |
| 74 インターネットの利用率 | % | 83.9 | 90.0 | 86.4 | 83.3 | D | 42位 (5位) | 46位 (6位) | ↓ (↓) |
| 75 河川整備率 | % | 51.9 | 52.7 | 52.3 | 52.7 | A | (1位) | — | — |
| 76 緊急輸送道路の整備延長 | km | 32.5 | 42.3 | 38.1 | 38.3 | A | — | — | — |
| 77 港湾取扱貨物量 | 万t | 506 | 587 | 517 | 455 | D | 35位 (5位) | — | — |
| 78 社会資本の維持管理を行う協働団体数 | 団体 | 424 | 424 | 424 | 409 | B | — | — | — |

県民の幸福度の向上に向けた県の取組や成果



男女共同参画や若者・女性、高齢者、障がい者などの活躍、幅広い市民活動や県民運動など幸福の追求を支える仕組みが整っている岩手

令和6年度の取組と今後の取組方向

〔取組状況〕



いわて男女共同参画社会づくり表彰

男女共同参画の推進に向けた機運をさらに高めていくため、男女共同参画社会づくりに功績のあった個人・団体を表彰しました。



いわて若者カフェ「連携交流ミーティング」

若者の主体的な活動を活性化させ地域をけん引する人材の育成につながるよう、ワークショップ等を実施しています。



家事育児のシェア率診断(家事育児シェアシート)の普及

男女が協力して家事育児を行う意識醸成を図るため、家事育児の分担状況を見える化する「家事育児シェアシート」を制作し、官民が連携して普及に取り組んでいます。



いわて女性デジタル人材育成プロジェクトの実施

女性の多様で柔軟な働き方の推進と所得向上を図るため、デジタルスキルの習得と就労までの一貫支援に取り組んでいます。



手話を使用しやすい環境の整備

令和6年4月に施行された「言語としての手話を使用しやすい環境の整備に関する条例」に基づき、手話による意思疎通支援を行う人材を養成しています。



社会のニーズに対応したNPO等の活動

地域住民が生きがいを持って暮らせる地域づくりを目指し、ものづくり等を通じて地域課題の解決に取り組むNPO等の活動を支援しています。

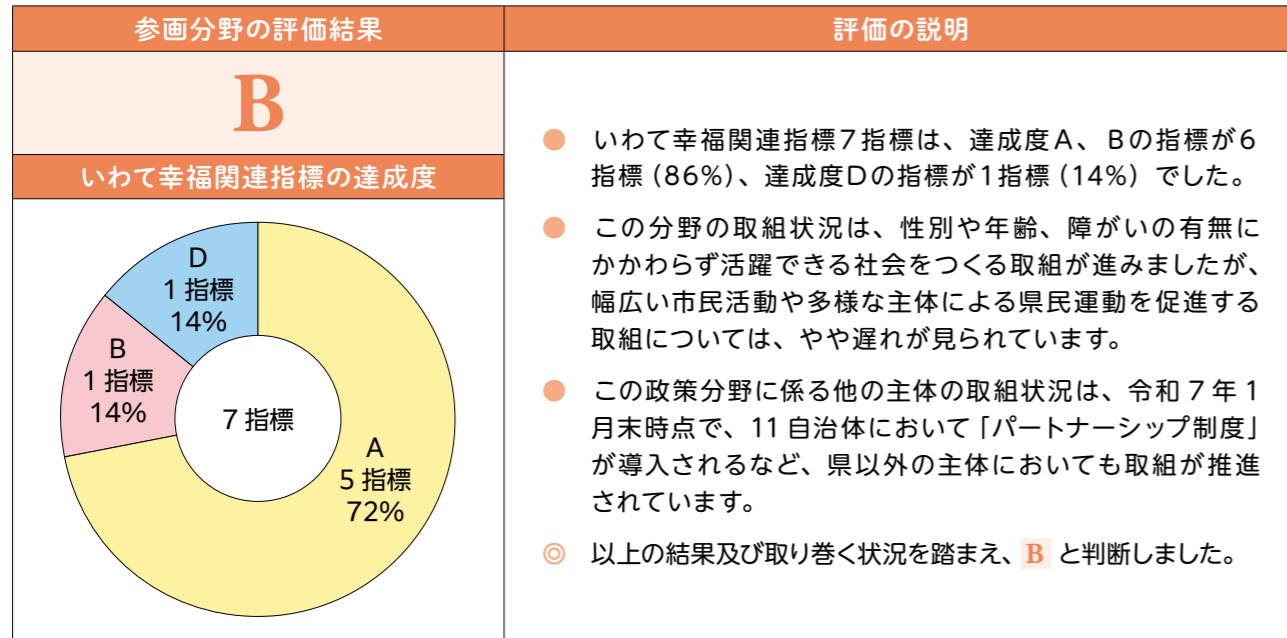
主な今後の取組方向

- 地域社会におけるジェンダーギャップを解消し、女性活躍を推進するため、アンコンシャス・バイアスの専門家による啓発活動や出張セミナーなどの意識啓発に取り組めます。
- 女性が活躍できる職場環境づくりを一層推進するため、新たに職場での女性活躍推進を牽引するキーパーソン養成セミナーを開催するなど、企業向けセミナーの充実に取り組めます。
- 障がい者の工賃水準の向上とあわせ、社会経済活動の担い手としての活躍を促進するため、障がい者が働く福祉的就労の場と一般企業や農林水産事業者等の一層の連携支援に取り組めます。

- 高齢者の社会貢献活動を促進するため、新たに普及啓発セミナーのほか、地域活動の事例紹介や課題解決に向けた情報交換会の開催等により、高齢者の意欲や能力を生かした地域活動の取組が広がるよう支援します。
- 多様な主体の参画・連携・協働を推進するため、市民活動やボランティア活動、連携・協働の取組事例を、NPO活動交流センターのホームページや情報誌等により発信するほか、「いわて若者カフェ」と連携し、NPOインターンシップや若者や行政職員とNPOとの交流会を開催するなど、県民の理解促進と参加・参画の機運醸成に取り組みます。

令和6年度の評価結果

[政策評価の結果]



[いわて幸福関連指標の達成状況]

| 指標名 | 単位 | 現状値 (R3) | 計画目標値 (R8) | 年度目標値 (R5) | 実績値 (R5) | 達成度 | 参考) 全国順位(東北順位) | | |
|-------------------------------|----|----------|------------|------------|----------|-----|----------------|----------|-------|
| | | | | | | | R3 | R5 | 比較 |
| 79 労働者総数に占める女性の割合 | % | 37.2 | 38.6 | 37.8 | 38.7 | A | 24位 (5位) | 21位 (4位) | ↗ (↗) |
| 80 女性の全国との賃金格差※1【再掲】 | % | 84.4 | 89.4 | 85.8 | 85.9 | A | 44位 (4位) | 43位 (4位) | ↗ (→) |
| 81 障がい者の雇用率 | % | 2.37 | 2.70 | 2.40 | 2.42 | A | 17位 (1位) | 24位 (2位) | ↘ (↘) |
| 82 高齢者のボランティア活動比率 | % | 25.3 | 28.9 | 26.7 | 27.9 | A | — | — | — |
| 83 共働き世帯の男性の家事時間割合(週平均)※2【再掲】 | % | 39.2 | 50.0 | 42.5 | 43.0 | A | — | — | — |
| 84 審議会等委員に占める女性の割合 | % | 39.9 | 40.0 | 40.0 | 38.4 | B | 19位 (2位) | — | — |
| 85 ボランティア・NPO・市民活動への参加割合 | % | 15.6 | 20.0 | 17.8 | 15.1 | D | — | — | — |

※1 全国を100とした水準 ※2 女性の家事時間に対する割合

【参考指標】

| 調査項目 | 単位 | 現状値 (R3) | R5の値 | 備考 |
|-----------------|----|----------|--------|---------|
| 29 管理職に占める女性の割合 | % | ⑳ 12.3 | ④ 15.0 | 5年ごとの調査 |

第3部 データ編



(第2部に使用した「いわて幸福関連指標」、「参考指標」のデータ一覧)

○政策分野の評価

・いわて幸福関連指標の状況、県民意識の状況及び政策分野を取り巻く状況を踏まえ、総合的に評価を行い、A B C Dの4段階で判定しています。

○達成度 各年度の目標値に対する達成率(%)に応じて右表のとおり判定しています。

○目標達成率の計算式

- ①通常の指標(R3現状値等から数値を上げる目標の場合)
②マイナス指標(R3現状値等から数値を下げる目標の場合)
③維持指標等(R3現状値等を維持する目標の場合)

○補足 ※▼印の指標は、R3現状値等から数値を下げることを目標とするものです。 ※◆印の指標は、R3現状値等を維持することを目標とするものです。

達成度と目標達成率の判定基準表

政策分野別の指標状況表 (健康・余暇、家族・子育て)

政策分野別の指標状況表 (教育、居住環境・コミュニティ)

| 政策分野 | R5 | 関係する政策項目 | 指標 | 指標名 | 単位 | 指標の状況 | | | | | | | | | | | | | 出典 | |
|-----------|----|-----------------|----|----------------------------|-----|--------------------|--------------------|--------------------|---------------------|--------------------|--------------------|--------------|---------|-----------------|-----------------|------|--------|----------------------------|------------|----------------------------|
| | | | | | | 現状値 (R3) | 年度目標値 | | | 実績値 | 達成度 | 進捗率 (R3R5目標) | 全国順位 | | | 東北順位 | | | | |
| | | | | | | | R5 | R6 | R7 | | | | R5 | R5 | R3 | R5 | R3との比較 | R3 | | R5 |
| V 安全 | D | 27 | 44 | 自主防災組織の組織率 | % | 88.5 | 89.8 | 90.4 | 91.0 | 91.8 | 89.1 | D | 18.2 | 27 | 28 | 下降 | 2 | 2 | 横ばい | 消防防災・震災対策現況調査(消防庁) |
| | | 28 | 45 | ▼刑法犯認知件数 | 件 | 2,507 | 2,560 | 2,470 | 2,380 | 2,300 | 2,856 | D | -168.6 | 2 | 6 | 下降 | 2 | 2 | 横ばい | 県警察本部調べ |
| | | 28 | 46 | ▼交通事故発生件数[千人当たり] | 件 | 1.29 | 1.23 | 1.18 | 1.14 | 1.10 | 1.27 | D | 10.5 | 4 | 5 | 下降 | 1 | 2 | 下降 | 警察本部統計 |
| | | 29 | 47 | ◆食中毒の発生人数[10万人当たり] | 人 | 1.3 | 7.3 | 7.3 | 7.3 | 7.3 | 3.3 | A | 86.3 | 4 | 6 | 下降 | 2 | 3 | 下降 | 食中毒統計資料(厚生労働省) |
| | | 30 | 48 | 新興感染症に対応可能な公立・公的医療機関等の数 | 機関 | - | 27 | 37 | 50 | 60 | 55 | A | 91.7 | - | - | - | - | - | - | 県保健福祉部調べ(医療政策課) |
| | | 31~39 | 49 | ◆一人当たり県民所得の水準 ※全国を100とした水準 | % | 87.4 ^① | 90.0 ^③ | 90.0 ^④ | 90.0 ^⑤ | 90.0 ^⑥ | 85.1 ^③ | B | 23.6 | - | - | - | - | - | - | 県民経済計算(内閣府経済社会総合研究所) |
| VI 仕事・収入 | B | 31~35 | 50 | ◆正社員の有効求人倍率 | 倍 | 0.88 | 1.00 | 1.00 | 1.00 | 1.00 | 0.89 | B | 22.3 | 34 | 38 | 下降 | 6 | 6 | 横ばい | 一般職業紹介状況(岩手労働局) |
| | | 9,31 | 51 | ▼総実労働時間[年間]【再掲】 | 時間 | 1,761.6 | 1,710.1 | 1,684.4 | 1,658.7 | 1,633.0 | 1,742.4 | D | 14.9 | 44 | 45 | 下降 | 3 | 4 | 下降 | 毎月勤労統計調査地方調査(厚生労働省) |
| | | 31 | 52 | ◆完全失業率 | % | 2.4 | 2.0 | 2.0 | 2.0 | 2.0 | 2.3 | B | 28.8 | 15 | 28 | 下降 | 2 | 2 | 横ばい | 労働力調査(基本集計)都道府県別結果(総務省統計局) |
| | | 17,18,31 | 53 | ◆高卒者の県内就職率【再掲】 | % | 74.1 | 84.5 | 84.5 | 84.5 | 84.5 | 71.5 | B | 21.2 | 33 | - | - | 5 | - | - | 岩手労働局調査 |
| | | 31,32,49 | 54 | 女性の全国との賃金格差 ※全国を100とした水準 | % | 84.4 | 85.8 | 87.0 | 88.2 | 89.4 | 85.9 | A | 30.0 | 44 | 43 | 上昇 | 4 | 4 | 横ばい | 全国賃金構造統計調査(厚生労働省) |
| | | 32 | 55 | 従業者一人当たりの付加価値額 | 千円 | 5,717 ^② | 5,831 ^④ | 5,889 ^⑤ | 5,947 ^⑥ | 6,006 ^⑦ | 5,976 ^④ | A | 89.6 | 37 ^② | 39 ^④ | 下降 | ② | 4 | 横ばい | 企業活動基本調査(経済産業省) |
| | | 32 | 56 | 開業率 ※雇用保険が新規に成立した事業所の比率 | % | ② 3.2 | ④ 3.3 | ⑤ 3.4 | ⑥ 3.5 | ⑦ 3.6 | ④ 2.4 | D | -200.0 | 44 ^② | 46 ^④ | 下降 | ② | 4 | 下降 | 雇用保険事業年報(厚生労働省) |
| | | 33,34 | 57 | 従業者一人当たりの製造品出荷額 | 百万円 | ② 29.6 | ③ 29.9 | ④ 30.3 | ⑤ 30.6 | ⑥ 31.0 | ③ 31.7 | A | 150.0 | 37 ^② | 31 ^③ | 上昇 | ② | 4 | 上昇 | 経済センサス、経済構造実態調査(総務省・経済産業省) |
| | | 35 | 58 | 観光消費額 | 億円 | ② 1,142.3 | ④ 1,657.7 | ⑤ 1,829.5 | ⑥ 1,936.2 | ⑦ 2,042.9 | 1,945.6 | A | 89.2 | - | - | - | ② 5 | - | - | 岩手観光統計 |
| | | 36,37 | 59 | 農業経営体一経営体当たりの農業総産出額 | 千円 | ② 5,312 | ④ 5,390 | ⑤ 5,530 | ⑥ 5,670 | ⑦ 5,810 | ④ 5,562 | A | 50.1 | - | - | - | - | - | - | 生産農業所得統計(農林水産省)・県農林水産部調べ |
| | | 36,37 | 60 | 林業就業体一人当たりの木材生産産出額 | 千円 | ② 4,377 | ④ 4,700 | ⑤ 4,770 | ⑥ 4,840 | ⑦ 4,910 | ④ 7,098 | A | 510.5 | - | - | - | - | - | - | 生産林業所得統計(農林水産省)・県農林水産部調べ |
| | | 36,37 | 61 | 漁業経営体一経営体当たりの海面漁業・養殖業産出額 | 千円 | ② 4,179 | ④ 3,930 | ⑤ 4,020 | ⑥ 4,110 | ⑦ 4,200 | ④ 5,705 | A | 7,266.7 | - | - | - | - | - | - | 漁業産出額統計(農林水産省)・県農林水産部調べ |
| | | 38 | 62 | 農林水産物の輸出額 | 億円 | 43.0 | 52.0 | 57.0 | 63.0 | 69.0 | 47.0 | D | 15.4 | - | - | - | - | - | - | 岩手県貿易等実態調査(日本貿易振興機構) |
| | | 39 | 63 | グリーン・ツーリズム交流人口 | 千人 | 1,090 | 1,160 | 1,200 | 1,210 | 1,220 | 1,148 | B | 44.6 | - | - | - | - | - | - | 県農林水産部調べ |
| | | 31~35 | 17 | 非正規職員・従業員率 | % | 35.7 ^⑨ | - | - | - | - | 35.5 ^④ | - | - | - | - | - | - | - | - | 就業構造基本調査(総務省) |
| | | 31~39 | 18 | 雇用者一人当たり雇用者報酬 | 千円 | 4,043 ^① | - | - | - | - | 4,101 ^③ | - | - | - | - | - | - | - | - | 県民経済計算(内閣府経済社会総合研究所) |
| | | 31~39 | 19 | 現金給与総額[5人以上、毎月] | 円 | 282,811 | - | - | - | - | 287,572 | - | - | - | - | - | - | - | - | 毎月勤労統計調査地方調査(厚生労働省) |
| | | 36,37 | 20 | 農業産出額 | 億円 | 2,651 | - | - | - | - | 2,660 ^④ | - | - | - | - | - | - | - | - | 生産農業所得統計等(農林水産省) |
| | | 36,37 | 21 | 林業産出額 | 千円 | 1,782 ^② | - | - | - | - | 2,567 ^④ | - | - | - | - | - | - | - | - | 農林水産統計(農林水産省) |
| 36,37 | 22 | 漁業産出額 | 千円 | 3,057 ^② | - | - | - | - | 3,897 ^④ | - | - | - | - | - | - | - | - | 農林水産統計(農林水産省) | | |
| 36,37 | 23 | 製造品出荷額 | 億円 | 24,943 ^② | - | - | - | - | 31,124 ^④ | - | - | - | - | - | - | - | - | 経済センサス、経済構造実態調査(総務省・経済産業省) | | |
| 33 | 24 | ものづくり関連分野の製造出荷額 | 億円 | 16,830 ^② | - | - | - | - | 22,294 ^④ | - | - | - | - | - | - | - | - | 経済センサス、経済構造実態調査(総務省・経済産業省) | | |
| 34 | 25 | 食料品製造出荷額 | 億円 | 3,769 ^② | - | - | - | - | 4,195 ^④ | - | - | - | - | - | - | - | - | 経済センサス、経済構造実態調査(総務省・経済産業省) | | |
| 34,38 | 26 | 水産加工品製造出荷額 | 億円 | 674 ^② | - | - | - | - | 655 ^④ | - | - | - | - | - | - | - | - | 経済センサス、経済構造実態調査(総務省・経済産業省) | | |
| 32 | 27 | 事業所新設率 | % | 11.7 ^⑩ | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 経済センサス(総務省) | | |
| VII 歴史・文化 | A | 40,41 | 64 | 世界遺産等の来訪者数 | 千人 | 417 | 712 | 805 | 898 | 991 | 778 | A | 62.9 | - | - | - | - | - | 県文化スポーツ部調べ | |
| | | 40,41 | 65 | 国、県指定文化財件数 | 件 | 574 | 580 | 583 | 586 | 589 | 584 | A | 66.7 | 31 | 29 | 上昇 | 3 | 3 | 横ばい | 県教育委員会調べ |
| | | 41 | 66 | ◆民俗芸能ネットワーク加盟団体数 | 団体 | 393 | 393 | 393 | 393 | 393 | 422 | A | 26.8 | - | - | - | - | - | - | 県文化スポーツ部調べ |

| 政策分野 | R5 | 関係する政策項目 | 指標 | 指標名 | 単位 | 指標の状況 | | | | | | | | | | | | | 出典 | | |
|-----------|----|-----------------------|----|---------------------------------------|------|-------------------|--------|--------|-------------------|--------|-------------------|--------------|-------|-----------------|-----------------|------|--------|---------------|-------------|------------------------|--------------------|
| | | | | | | 現状値 (R3) | 年度目標値 | | | 実績値 | 達成度 | 進捗率 (R3R5目標) | 全国順位 | | | 東北順位 | | | | | |
| | | | | | | | R5 | R6 | R7 | | | | R5 | R5 | R3 | R5 | R3との比較 | R3 | | R5 | R3との比較 |
| VIII 自然環境 | B | 42 | 67 | ◆岩手の代表的希少野生動植物の個体・つがい数(イヌワシつがい数) | ペア | 26 | 26 | 26 | 26 | 26 | 24 | B | 23.1 | - | - | - | - | - | 県環境保健センター調べ | | |
| | | 42 | 68 | ◆岩手の代表的希少野生動植物の個体・つがい数(ハヤチネウスユキソウ個体数) | 花茎 | ④ 115 | 115 | 115 | 115 | 115 | 96 | B | 20.9 | - | - | - | - | - | 県環境生活部調べ | | |
| | | 42 | 69 | 自然公園の利用者数 ※自然公園ビジターセンター等利用者数 | 千人 | 339 | 401 | 431 | 462 | 493 | 446 | A | 69.5 | - | - | - | - | - | 県環境生活部調べ | | |
| | | 42 | 70 | ◆公共用水域のBOD(生物化学的酸素要求量)等環境基準達成率 | % | 95.7 | 95.7 | 95.7 | 95.7 | 95.7 | 98.3 | A | 25.7 | - | - | - | - | - | - | 県環境生活部調べ | |
| | | 44 | 71 | 再生可能エネルギーによる電力自給率 | % | 38.6 | 50.9 | 51.0 | 53.8 | 56.2 | 45.7 | D | 40.3 | - | - | - | - | - | - | 県環境生活部調べ | |
| | | 43 | 72 | ▼一般廃棄物の最終処分量 | 千t | ② 37.8 | ④ 37.0 | ⑤ 36.6 | ⑥ 36.2 | ⑦ 35.8 | ④ 36.7 | A | 55.0 | 16 ^② | 19 ^④ | 下降 | ② | 3 | ④ 3 | 横ばい | 一般廃棄物処理事業実態調査(環境省) |
| IX 社会基盤 | B | 43 | 73 | ▼一人1日当たり家庭系ごみ(資源になるものを除く)排出量 | g | ② 520 | ④ 513 | ⑤ 507 | ⑥ 500 | ⑦ 493 | ④ 514 | B | 22.2 | 17 ^② | 23 ^④ | 下降 | ② | 1 | ④ 1 | 横ばい | 一般廃棄物処理事業実態調査(環境省) |
| | | 42,44 | 28 | 森林面積割合 | % | 74.6 ^① | - | - | - | - | 74.6 ^① | - | - | - | - | - | - | - | - | 農林業センサス(農林水産省) | |
| | | 45 | 74 | インターネットの利用率 | % | 83.9 | 86.4 | 87.6 | 88.8 | 90.0 | 83.3 | D | -9.8 | 42 | 46 | 下降 | 5 | 6 | 下降 | 総務省「通信利用動向調査」を参考 | |
| | | 46 | 75 | 河川整備率 | % | 51.9 | 52.3 | 52.4 | 52.5 | 52.7 | 52.7 | A | 100.0 | - | - | - | 1 | - | - | 県土整備部調べ(河川課) | |
| | | 46,48 | 76 | 緊急輸送道路の整備延長 | km | 32.5 | 38.1 | 39.4 | 40.5 | 42.3 | 38.3 | A | 59.2 | - | - | - | - | - | - | 県土整備部調べ(道路建設課) | |
| | | 44 | 77 | 港湾取扱貨物量 | 万t | 506 | 517 | 523 | 571 | 587 | 455 | D | -63.0 | 35 | - | - | 5 | - | - | 港湾統計(国土交通省) | |
| X 参画 | B | 48 | 78 | ◆社会資本の維持管理を行う協働団体数 | 団体 | 424 | 424 | 424 | 424 | 424 | 409 | B | 24.1 | - | - | - | - | - | - | 県土整備部調べ(道路環境課・河川課) | |
| | | 49 | 79 | 労働者総数に占める女性の割合 | % | 37.2 | 37.8 | 38.1 | 38.4 | 38.6 | 38.7 | A | 107.1 | 24 | 21 | 上昇 | 5 | 4 | 上昇 | 賃金構造基本統計調査(厚生労働省) | |
| | | 31,49 | 80 | 女性の全国との賃金格差【再掲】 ※全国を100とした水準 | % | 84.4 | 85.8 | 87.0 | 88.2 | 89.4 | 85.9 | A | 30.0 | 44 | 43 | 上昇 | 4 | 4 | 横ばい | 全国賃金構造統計調査(厚生労働省) | |
| | | 49 | 81 | 障がい者の雇用率 | % | 2.37 | 2.40 | 2.50 | 2.50 | 2.70 | 2.42 | A | 15.2 | 17 | 24 | 下降 | 1 | 2 | 下降 | 障害者雇用状況報告書の集計結果(岩手労働局) | |
| | | 49,50 | 82 | 高齢者のボランティア活動比率 | % | 25.3 | 26.7 | 27.4 | 28.1 | 28.9 | 27.9 | A | 72.2 | - | - | - | - | - | - | 県民意識調査(岩手県) | |
| | | 9,49 | 83 | 共働き世帯の男性の家事時間割合【再掲】 ※女性の家事時間に対する割合 | % | 39.2 | 42.5 | 45.0 | 47.5 | 50.0 | 43.0 | A | 35.2 | - | - | - | - | - | - | 県民意識調査(岩手県) | |
| 49 | 84 | ◆審議会等委員に占める女性の割合 | % | 39.9 | 40.0 | 40.0 | 40.0 | 40.0 | 38.4 | B | 24.0 | 19 | - | - | 2 | - | - | 県環境生活部調べ | | | |
| 50 | 85 | ボランティア・NPO・市民活動への参加割合 | % | 15.6 | 17.8 | 18.9 | 19.5 | 20.0 | 15.1 | D | -11.4 | - | - | - | - | - | - | 県民意識調査(岩手県) | | | |
| 49 | 29 | 管理職に占める女性の割合 | % | 12.3 ^⑪ | - | - | - | - | 15.0 ^④ | - | - | - | - | - | - | - | - | 就業構造基本調査(総務省) | | | |

いわて 幸福白書 2025

岩手県政策企画部政策企画課

〒020-8570 盛岡市内丸10-1

TEL 019-629-5509

